

平成25年度 先導的大学改革推進委託事業調査研究報告書

米国におけるAP(アドバンストプレイスメント)の実施状況等に関する調査研究

平成26年3月

関西国際大学

## はじめに

教育再生実行会議の第四次提言（平成25年10月）においては、大学入学者選抜の転換とともに、高等学校教育と大学教育の連携を強力に進める必要性が指摘されている。その具体的な方法のひとつとして、高校生に大学レベルの教育機会を提供するために米国で実施されている、アドバンストプレイスメント（Advanced Placement, AP）を日本でも推進することがあげられている。

本委託事業の目的は、日本におけるAPの効果的な実施方策の検討に資するため、米国におけるAPの実施状況等を把握することである。今回は、以下の調査研究を実施した。

### (1) 米国におけるAPの実施状況の概観と整理

APに関する先行研究を検討するとともに、APの実施団体であるカレッジボード（College Board）の資料を、ホームページなどから収集して検討する。あわせて、カレッジボードを対象とした聞き取り調査を行い、米国におけるAPの実施状況の概観と整理を行う。

### (2) 米国におけるAPへの認識の把握

対象地域は、高校におけるAPの実施率が高い地域から、地理的に離れたところとして、ニューヨーク市とワシントン州を取り上げた。近年、米国では、高校のAPコースを拡大して、マイノリティの生徒に高等教育への進学をうながす手段として活用されている。そこで、州ないし市の教育当局、高等学校のAP担当教員、APを受講する生徒などを対象とした聞き取り調査を行い、APに対する教育現場における認識の把握を行った。

### (3) 東アジアにおけるAPの普及と評価

APは米国の内部に限定された制度ではなく、この教育機会を外国人が外国で享受することが可能である。APが活用されている東アジアの代表的な国として、中国、韓国、台湾があり、それらの諸国における普及状況と評価について調査を行った。

### (4) 日本国内のAPに類似した取り組み事例の調査

日本国内において、高校生が大学の正規の授業を履修して単位認定を受けることができる取り組みを行っている事例として、埼玉大学、桜美林大学、玉川大学において聞き取り調査を行った。なお、日本国内においても、外国の制度にもとづく教育機関（アメリカン・スクールなど）ではAPが実施されているが、今回の調査対象とはしなかった。

これらの調査結果が高大連携の推進に資することを祈念するとともに、調査研究に協力していただいた方々に厚く御礼を申し上げる。

研究代表者 濱 名 篤

## 研 究 組 織

本事業の受託は関西国際大学が行い、下記の研究組織によって実施した。

### 研究代表者

濱 名 篤 (関西国際大学教育総合研究所、学長)

### 研究分担者

塚 原 修 一 (教育学部客員教授)

吉 田 武 大 (教育学部准教授)

川 村 光 (教育学部准教授)

伊 藤 創 (共通教育機構特任講師)

山 田 礼 子 (同志社大学社会学部教授)

川 嶋 太津夫 (大阪大学未来戦略機構戦略企画室教授)

申 昌 浩 (京都精華大学人文学部准教授)

### 事務担当者

岡 田 崇 史 (学長室課長代理)

## 目 次

第1章 米国における AP の現状	- 1 -
第1節 APプログラムの高大接続への可能性：諸外国への示唆（山田礼子）	- 1 -
第2節 College Board の Advance Placement Program（川嶋太津夫）	- 5 -
第3節 フォードム大学/ Cooper Union における AP の活用（川村光/伊藤創）	- 8 -
第4節 Lakes 高校の AP 実施事例（伊藤創）	- 13 -
第5節 州・地方教育委員会からみた AP（吉田武大）	- 17 -
第2章 東アジアにおける AP の普及と評価	- 20 -
第1節 中国における高大接続プログラムの実態（小野寺香）	- 20 -
第2節 韓国における AP の現状 -外国語高等学校及び語学院を中心に-（申昌浩）	- 39 -
第3節 高校-大学連携深化課程 UP（韓国の University-level Program）（申昌浩）	- 56 -
第4節 台湾における高大接続プログラムの実施状況（小野寺香）	- 66 -
第3章 日本での AP 型プログラムの現状	- 81 -
第1節 埼玉県立浦和高校の事例（伊藤創）	- 81 -
第2節 埼玉大学の高大連携講座（塚原修一）	- 85 -
第3節 玉川大学・玉川学園高等部の事例（吉田武大）	- 89 -
第4節 桜美林大学の事例（吉田武大）	- 92 -
第4章 日本における AP の可能性と条件（塚原修一）	- 95 -
第1節 高大接続の手段としての米国の AP	- 95 -
第2節 東アジアにおける AP の普及と評価	- 97 -
第3節 日本国内における AP の類似事例	- 98 -
第4節 日本型 AP の必要性和その条件	- 99 -
終章 おわりに（濱名篤）	- 102 -
付録1 米国のアドバンストプレイスメントに関する日本の先行研究	- 104 -
付録2 APに関するカレッジボードの年次報告書	- 105 -



## 第1章 米国における AP の現状

### 第1節 AP プログラムの高大接続への可能性：諸外国への示唆

山田 礼子（同志社大学）

#### 第1項 背景

近年、日本において高大接続という視点から入試改革への提言がなされている。平成 25 年に公表された「教育再生実行会議第四次提言」では、各大学は、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する選抜に転換すること、その際養成する人材像を明確化し、教育を再構築、アドミッションポリシーを具体化することが求められている。同時に、大学教育に必要な能力判定のための新たな試験（達成度テスト（発展レベル））の導入の必要性と入学者選抜で基礎資格としての利用を促進し、達成度テスト（基礎レベル）と一体的に運営することの必要性が示された。こうした提言を受けて、中央教育審議会に設置されている「高大接続特別部会」では、各大学が入試に際して学力の判定に利用すると予想される「達成度テストの発展レベル」の具体的な内容等を検討している。多くの大学が今後開発されるであろう「達成度テストの発展レベル」を入試においてどのように活用していくのかについて検討し始めていると聞く。こうした政策は入試を起点とした高大接続であると位置づけられるが、高校と大学の教育制度という視点からの高大接続という側面も検討することも不可欠であろう。例えば、日本では少子化が進展する状況において、大学や短期大学にとっていかに学生を確保するかは最も優先すべき課題となっている。多くの大学、特に私立大学においては関係する高校の系列化を積極的に推進しているだけでなく、提携校、連携校の増加にも積極的である。日本での大学と高校との高大接続は、オープンキャンパス、体験授業、高校出張授業などが代表的な例である。一方、米国の大学においても高大連携や接続は活発であるが、その方法がかなり日本の高大連携や接続とは異なっている。

本報告書では、こうした教育制度上での高大接続そして実際の中身である教育プログラムという視点から、米国で運営されてきた AP プログラムについて調査を行い、同時にそうした AP プログラムを導入している韓国や中国、台湾の事例、あるいは日本での応用について調査を行い、その調査結果をまとめている。本稿では、特に米国の高大接続制度としての AP プログラムと韓国で導入されている UP とも共通点がありながらも、米国の個別大学が独自に高大接続プログラムとして実施しているコンカレント・プログラムの概要を提示する。AP プログラムとは異なり、個別大学が実施する高大接続制度としてのコンカレント・プログラムは日本の個別大学が実施する場合の高大接続プログラムとも関連が見いだせよう。

#### 第2項 米国の高大接続制度の概要

長い歴史をもち、米国国内のみならず現在では国境を越えて普及しつつある AP (Advanced Placement Program) とエクステンションプログラムで主に実施されている高校生を対象と

したコンカレント・プログラム（Concurrent Program）を米国版高大接続という枠組みでその概要を提示する。

### 第3項 APプログラムとその効果

APプログラムとは、中等学校の生徒に大学レベルの授業を受ける機会を与え、授業終了後に年に一度実施されるAPテストの結果に基づいて、大学入学後には単位を認定するというプログラムである。非営利団体であるカレッジ・ボードが運営し、TOEFLなどを実施しているETS（Educational Testing Service）がAPテストを作成している。APプログラムを通じて取得した単位は、APテストに合格した場合、大学入学後に卒業に要する単位として換算されることが可能になる。APプログラムは、高等学校在学中に受講することから、通常は高校にAPコースが設置され、カレッジ・ボードでAP科目の研修を受けた高校教師がAP科目を教える。高校にAPコースが設置されていない生徒も個人学習によってAPテストを受けることも可能である。また、モチベーションの高い高校生なら誰でもアクセスが出来るというこの制度を通じて、高校に通学せずにホームスクーリングを受けている若者もAP科目の受講と試験を受けることもできる。

APプログラムは、米国の高大接続の代表的事例であり、早期から大学レベルの学習を経験することにより、大学での学習に円滑に移行するという効果を持っている。APプログラムは、本来優秀な生徒に早期から大学レベルの科目を履修させることで大学への適応を支援するいわばエリート教育の一類型であったが、最近では大学進学を希望する生徒は誰もがアクセスできるようなプログラムに変容してきている。さらには、従来、APコースは高校の最終学年を対象にしていたが、対象学年が拡大する傾向にあり、事実高校低学年次生徒の履修率が全履修生徒の5割程度を占めている。また、マイノリティ学生の動機付けプログラムとして促進させようとしている州も出現している。大学がどこまでAPプログラムの単位を認めるかという点でも、大学によっては単位制限をしているところもあるなど多様性がある。アメリカの高校では、多くのAP科目を履修する高校生の比率はそれほど高くない。APプログラムの展開と普及には、高大接続といった点からみれば、どこまでが高校（中等）教育であり、どこからが大学教育であるのかが不透明になる危険性を伴っているが、高校の教師がAP科目を教えるという点に高大接続の意味があるのも事実である。アクティブ・ラーニングを主体とする教授法が取り入れられているアメリカの中等教育であるからこそ、大学での低学年時科目との共通性がある程度見られる理系科目だけでなく、文系、社会科学系科目での高大接続が可能となり、高校教師と大学教員が教授法や科目が目標とする成果を共有することもできるからである。

### 第4項 高大接続に活用するコンカレント・プログラム

エクステンションと呼ばれる拡大授業プログラムを通じて大学の授業を履修できるシステムであるコンカレント・プログラムは大学側を主体とした高大接続プログラムである。

コンカレント・プログラムは、大学が提供している科目履修の前提条件を満たしていれば、誰もがエクステンションを通じて履修することができ、履修し終えた際に、単位を取得することができるシステムである。一般の社会人、他の大学の学生、正規留学が認定されていない外国人学生、そして高校生などあらゆる人々がこのコンカレント・プログラムを通じて大学の授業を履修することが可能である。

実際、コンカレント・プログラムを積極的な高大接続プログラムと位置づけて、高校生にコンカレント・プログラムに参加することを奨励している大学も少なくない。例えば、コロラド大学ボールダー校ではコンカレント・プログラムを通じての高校生の大学の授業の履修を積極的に受け止めており、そこで履修した単位は高校の卒業単位としても認定されるようになっている。テキサス州のあるコミュニティ・カレッジでは、2重単位取得型コンカレント・プログラムを導入している。このプログラムは、高校に在籍しながら早期に大学での学位取得を同時に目指すことができるように設計されており、高校3年時から本プログラムに参加した場合には、卒業までに最大限30単位の大学の単位の取得が可能である。このプログラムを履修する高校生にとっての最も大きなメリットの一つは、通常の大学の科目を履修するよりも、このプログラムを通じて大学の科目を履修の方がはるかに低価格で済み、奨学金など金銭補助の対象にもなっている点である。さらに、大学レベルの科目の単位取得を通じて、早期から大学での学習生活へのスムーズなスタートにつながり、実際に大学に進学した場合には、自信をもって大学生活を送ることができることも大きなメリットである。一方で、早くからこの大学への進学を決定する必要があるなど選択の幅が狭まることも付随している。

AP科目を履修した場合には、AP科目試験に合格しなければ大学での単位を取得できないのに対し、2重単位取得型プログラムにおいては、科目を終了し単位を取得できれば、直ちに大学でも通用する単位としてその単位が認定されるということ、2重単位取得型プログラムの科目を担当している教師は実際の大学の教員であるということも大きな差異である。このように、近年米国では従来から存在していた高大接続プログラムをより拡大あるいは普及させてきている。

訪問調査により得た米国のAPプログラムの詳細、および大学側、高校側の利用や評価については、本章第2～5節で提示されている。

## 第5項 諸外国でのAPプログラムの導入およびその応用

最近ではグローバル化を目指す中国や韓国では、早期からアメリカの大学進学を目指している高校生にAP科目を履修させるなど積極的な展開を図っている。中国では、富裕層の子弟を中心に例えば米国の4年制大学に進学する人数が増加しており、こうした層をターゲットとして通常の中国の教育制度内で認可されている高校とは別枠での高校がAP科目や制度を導入している場合もある。韓国でもいくつかの高校がAP科目や制度を導入している。これらの事例は第2章第1・2節に掲載されているが、グローバル化への対応として海外大



学（米国）への進学を目的とした事例であると位置づけられる。すなわち、米国でも AP 制度の効果として高校から大学での学習への早期からの適応あるいは優秀な学生を早期から獲得できるという点がしばしば指摘されるが、第二言語として英語を使用する国々からの留学生が米国での 4 年制大学に円滑に適応することは容易ではない。中国や韓国でも AP 科目は、比較的言語の壁が低いとされている理系科目が多いことが示されているが、それでも米国の大学では専門学部へ入学されるというのではなく、工学部などを除けば文理学部に入学し、そこで一般教育を履修後に徐々に専門分野を決定していくのが通常のプロセスである。米国での授業スタイルは東アジア圏の中等教育で慣れてきた一般的な講義スタイルとは異なり、かつレポートの書き方等も異なるため、多くの東アジア出身の米国大学学部への留学生は初年次での学習適応に困難を感じるケースが多いことが指摘されている。

筆者は 2012 年にカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)で客員として滞在していたが、その際、学部留学生を受け入れる国際センター(ダッシュ国際センター)では、2012 年度新入留学生全員が「Integrity」(誠実性)という講座を履修することが求められることが明らかになった。この講座の内容は、「剽窃」等を中心とした文章盗用やクラスでのカンニング等に関する新たな基準設定とその遵守を巡る内容から成り立っている。一方、そうした講座設置の背景について、詳しく聞くと東アジア圏出身の留学生のテストでの回答やレポートの書き方等の文化的差異が影響していることも明らかになった。つまり、中国、韓国、日本等の中等教育段階では「教科書に書かれていることを覚え、確実に再現すること」が求められ、しばしば試験でもこのような側面が重視される。一方、米国ではそうした教科書や文献の再現は剽窃として捉えられる傾向があり、留学生のテストでの回答やレポートでの表現(たとえ引用がされていたとしても)、「Integrity」(誠実性)というコードに抵触されることが多いことが判明した。UCLA に関わらず現在東アジア圏からの留学生が増加している米国の 4 年制大学ではこうした学習を巡る文化的差異が浮上しており、「Integrity」(誠実性)講座が設置されるケースが増加していると聞く。このような新たな状況を鑑みると、AP 科目を導入することにより、早期から学習方法や成果の提示の仕方の差異に適応していくことは、海外の大学で学ぶという意味では意義が大いにあるともいえよう。

次に、韓国では、AP 制度とは異なり、大学と高校での教育接続の制度が導入されている。第 2 章第 3 節で説明されているが、この接続制度は、米国で AP とは別に進捗し、少なくとも大学が導入しているコンカレント・プログラムの概念に近似している制度といえよう。一方、日本では一部の高校と大学の間で、コンカレント・プログラムに近い形態での高大接続制度が進捗しているが、全体としてグローバル化を目指し AP プログラムを高校段階で積極的に展開するのか、大学が主体としたコンカレント・プログラム型高大接続プログラムを展開し、高校との連携を拡大していくのか、残念ながらその方向性はまだ見えていないともいえるが、今後の展開が期待される。

## 第2節 College Board (カレッジ・ボード) の Advance Placement Program

川嶋 太津夫(大阪大学)

### 第1項 はじめに

カレッジ・ボードは、1900年に設立された非営利団体で、高校生の大学進学への支援及びそのために必要な研究開発を行っている。毎年700万人以上の高校生が、高校から大学へ円滑に移行できるよう様々な取組を行っているが、その中でも代表的なものが SAT と Advance Placement Program (以降、AP と称する) である。小論では、「高大接続」の観点から AP の意義を3点述べる。

### 第2項 高校生の学習意欲の喚起と高度な教育機会の提供

米国では、一部を除き多くの公立高校では、学区ごとの「総合制高校 Comprehensive High School」であり、入学後、卒後の進路や学力に応じて「Track」に配分される、いわゆる「コース別」指導が一般的である。日本の高校が、高校入試によってある程度同質化されているのとは対照的に、同じ高校内でも生徒は極めて多様であり、中退率も25%にのぼる。したがって、中退する生徒も多いが、逆に、極めて優秀な生徒も多数在籍することになり、高校では、これらの学力が優秀で、高い動機をもつ生徒に対して、特別のカリキュラムを用意している。代表的なものが「優秀プログラム Honor Program」とよばれる特別コースで、より高度な内容や、特定の分野の学習機会が設けられている。また、近隣の大学が夏休み期間に、特別な授業を提供する場合もある。

同様に、極めて優秀で、学習意欲が高い生徒に向けて開設されるのが AP であり、優秀プログラムと異なるのは、大学進学を目指して、カレッジ・ボードが開催する AP 試験に向けての科目であること。科目ごとに、共通のシラバスがあり、研修を受けた高校の教員が、そのシラバスに沿って授業を行うこと。また、この試験に一定の成績で合格すれば、大学で既習単位として認められることである。

このように、米国の高校では、生徒の多様性に応じてコース制を取り入れたり、学力不振の生徒への特別のプログラムを提供したり、逆に、学力優秀な生徒には「優秀プログラム」や AP を提供することが可能なのは、我が国のような統一的な学習指導要領が存在しないからであり、州、学校区、学校ごとにカリキュラム編成の裁量が認められているからである。しかし、我が国では、新たに「学校設定科目」の開設が認められたが、法的拘束力のある学習指導要領により、提供すべき教科・科目が厳密に定められているため、米国のように、生徒の実情に応じた柔軟で、多様なカリキュラムを編成することが困難になっている。今後、学習指導要領の大綱化も事後評価制度とともに検討する必要があるだろう。

### 第3項 多様な高校教育の平準化

前説で指摘した米国の高校でのカリキュラム編成の柔軟性とは裏腹に、各高校の教育内容や教育水準は極めて多様である。

他方、高等教育も多様で、そのため、一般化は極力避けなければならないが、入学許可者の決定には、主に次の4つの資料が使用される。

1. 共通学力試験の成績 (SAT, ACT)
2. 高校の成績証明書
3. 学年における成績の順番
4. エッセイ
5. 推薦書

入学者の決定は、これらの複数の情報をもとに行われるが、研究によれば、これらのうちで、高校での成績(GPA)が大学での成績(GPA)との相関が最も高いという。(Belfield & Crosta: 2011)

しかし、高校の教育水準は多様であるため、成績証明書だけでは、志願者の学力水準を性格に判定することは難しい。そこで、SAT や ACT の成績の学校平均点でその高校の教育水準を判定するとともに、志願者が AP 試験を受けていれば、その成績により志願者の学力水準や学習意欲が判定できることとなる。今回、インタビューしたアドミッション・オフィスのスタッフの一人は、出身高校が劣悪な環境にあっても、「優秀プログラム」や AP 科目を履修し、試験で優秀な成績を修めていれば、その志願者を積極的に評価すると述べていた。

このように、多様な高校の教育水準を補正し、志願者の真の学力と意欲を判定するツールとしての役割を AP は SAT,ACT といった共通学力試験とともに果たしている。我が国でも、ほぼ事実上全ての中学卒業者が進学する高校教育は、米国同様極めて多様化しているが、残念ながら各高校の教育水準を相対化する目安が存在しない。大学入試センター試験は、5割弱の高校生が受験するが、学校ごとの平均点は公開されていない。現在検討されている「達成度テスト(基礎レベル)」において、少なくとも国語、数学、英語の受験は必修として、学習指導に活用し、高校教育の質の保証に資するとともに、調査書の信頼性を高めてはどうか。米国では、このような学校間の多様性をできるだけ少なくし、高校教育の質保証と向上に資するために、現在、"Common Core State Standard"と呼ばれる取組が全国的に展開されている。

#### 第4項 教員同士の協働

AP の高大連携における役割として最後に指摘すべき特徴として、5000名を上回る大学教員が AP に参加し、各科目のシラバス点検、カリキュラム開発、高校教員の研修あるいは答案の採点作業に、高校教員とともに従事していることである。とくに、シラバスの点検やカリキュラム開発に大学教員と高校教員が協働することにより、大学が入学者に期待する能力・学力と、高校教育で育成している能力・学力の調整が可能となり、教育接続として高校から大学への円滑な移行が可能になると思われる。我が国でも、個別の大学が近隣の高校の教員と意見交換をする機会を設けているが、今後が、国レベル、特に学習指導要領作成時に、両者からのインプットと意見交換を得る機会を設定してはどうだろうか。英国では、

A レベル試験の改革を計画しているが、新しいシラバス開発にはラッセル・グループと呼ばれる研究大学グループから教員が参加し、アドバイスすることとなっている。

(参考文献)

Belfield, C. R. and P. M. Crosta, *“Predicting Success in College: The Importance of Placement Tests and High school Transcripts”*, CCRC Working Paper No. 42, Teachers College, Columbia University, 2011.

### 第3節 フォードム大学/ Cooper Union における AP の活用

川村 光 (関西国際大学)

伊藤 創 (関西国際大学)

#### 第1項 フォードム大学

フォードム大学は 1841 年に設立されたニューヨーク州にあるイエズス会系の名門私立大学である。学部には教養学部や経営学部などがあり、また、大学院には文理学、経営学、教育学、法学、宗教学などがある。キャンパスは 3 つあり、在學生は学部生が約 8000 人、大学院生は約 7000 人おり、およそ 15000 人が学修している大学である。

本節では、2014 年 2 月 20 日に実施した、フォードム大学ローズヒル・キャンパスにおける、ジョン・バックリー (Associate Vice President for Undergraduate Enrollment) とモニカ・エッサー (International Recruitment) に対する聴き取りをもとに、フォードム大学における AP の活用について報告する。

#### 第1 フォードム大学における入学者選抜

フォードム大学の入学者を選定するためのスタッフは 100 人以上いるが、その中でも 23 人が入学者選抜を主要業務として配置されている。また、3 人がその業務をサポートしている。彼らの具体的な業務は、学生募集や応募者の情報の精査などである。なお、中国などの海外からの応募者の書類の翻訳などについては、他のスタッフが関わることとなる。

応募者数は年々徐々に上昇しており、現在は 40000 人ほどが応募してきている。前述の 23 名のスタッフが彼らの書類選考を行い、応募者の 40~50% に対して入学許可を出している。入学者を決定するにあたって膨大な量の資料の処理をする必要があるため、彼らの負担がかなり大きい。したがって、特に大量の資料を読み、整理していく時期には、選考資料の処理経験のあるパートタイム職員を雇用して対応している。

合否判定にあたっては、明らかな合格者と不合格者に対しては特別な対応をしない。だが、ボーダーラインの者に対しては、時間をかけてダブルチェックをし、合否判断を行っている。

合否判定にあたって参考にする必要書類は、学部によって異なっているものの、①高校での成績、②SAT、ACT、TOEFL、③学業以外の活動、④writing sample、⑤推薦書は共通で必要なものとなっている。そのなかでも、特に高校での成績と SAT、ACT、TOEFL は重要な書類である。高校のランクによって、生徒の成績の質が異なっているため、長期にわたって信頼関係を築き上げてきた高校以外の新規の高校や、これまで大学との関係が希薄であった高校については、高校に直接問い合わせを行ったり、公開されている情報 (設置コース、AP プログラムなど) を収集したりして、参考資料にしている。

特に多くの AP コースを設置している高校には、高い評価をしている。また、応募者

については、より多くの AP コースを履修していると、評価が高くなる。だが、彼らが過度にコースを履修していたり、成績が低かったりすると、「自己管理能力がない」という判断をされ、AP が応募者にとって不利に働く。つまり、AP を履修しただけでは不十分であり、よい成績を収めなければ、AP は有効に機能しない。そのため、高校には履修のカウンセラーが配置され、生徒のカウンセリングにあたっている。

なお、海外の高校については、学校情報を収集することが難しい状況である。

## 第 2 フォードム大学における AP の機能

多くの学生は 124 単位以上取得して卒業する。そのため、高校時代に AP テストを受けて大学の単位を先取りするという AP の機能は必ずしも有効に働いているわけではない。

また、大学入学後に、AP の単位を取得している学生の方が、それ未取得していない学生よりよい成績を収めるとは言い難く、AP 単位の取得の有無で、入学後の学生の学業成績について予測することは難しい。入学者の大学入学前のレディネスや、大学での成功可能性を推察する指標としては、AP より IB の方が有効であり、フォードム大学ではそれを活用している。

なお、挑戦的な AP を履修した学生については、成績だけでなく、大学への適応性を図る指標になると考えられる。特に、特定の学部に関心のある学生にとっては有効に働くと思われる。だが、フォードム大学ではライティングを重視するカリキュラムの特性上、AP より SAT のライティング・セクションのスコアの方が、学生の大学への適応性の指標として有効である。

## 第 3 小括

以上のようにフォードム大学では、入学者選抜にあたって、AP コースの履修状況や AP スコアを選抜の評価基準として活用しているものの、AP による評価の比重は高いとは言えない。むしろ、高校での成績や SAT、ACT、TOEFL の結果が重要な評価基準になっている。また、学生は入学後、積極的に単位を取得しており、AP の「先取り」機能が有効に働いているとは言い難い状況である。さらに、AP は入学者のレディネスや大学への適応性を図る指標として一定の評価をされているものの、IB や SAT の方がそれらの指標として重視されている。

## 第2項 Cooper Union

本調査では、上記のフォーダム大学に加えて、同じく、ニューヨーク・マンハッタンに位置する名門私立大学である **The Cooper Union** においても聞き取り調査を行った(2014年2月21日)。我々の調査を受け入れてくれたのは、同大学のアドミッションオフィスに9年間努める **John Falls** 氏で、同氏に、フォーダム大学と同じく、学生の選抜に AP コースの受講や成績、AP テストの結果がどの程度の重要度を占めているかという観点から Cooper Union における AP の評価を伺った。

### 第1 Cooper Union における AP の評価

Falls 氏によれば、Cooper Union においては(フォーダム大学とは異なり)、入学希望者の選抜過程において、AP コースの受講や AP テストの結果は、一定の比重を占め、近年では、特に AP のテストに合格していることは、(実質的な) 必須要件に近くなりつつあるとまで言える状態であるそうである。

この AP の比重の高さについては、一つには、高校ごとに成績の基準や推薦書の価値などが異なることがその理由としてあげられるという。ある高校での GPA の値は、他の高校でのその値と同等であるとは言えないのが実情であり、そうした中、College board によってそのレベルが一定に保たれている AP は、学生の真の学力をできるだけ正確に知りたい大学のアドミッションオフィスにとって、一つの大きな指針となるそうである。

ちなみに、この学生選抜の際の指標の信頼性という観点からは、International Baccalaureate (IB) も学生の高レベルの学力を示すものであり信頼性も高いが、IB を持つ学生であっても、数学や科学に特に高い能力を持つかについては保証がないという。Cooper では高校時代に calculus (微分) と physics (物理) の能力をかなりのレベルまで高めていることが大学での成功に非常に重要なカギとなり、こうした特定の学問領域に関する学力を数値として示してくれる AP は、学生の選抜の際の判断材料として IB よりもうまく機能するという側面があるとのことである。

また、Cooper Union では、毎年、約 4300 人の応募者を、350 人にまで絞るが、この非常に競争率の厳しい入学審査が、その作業の大部分を7名のアドミッションオフィスのメンバーで行う。限られた人数で大量の応募書類を読み込み選別していく必要があるゆえに、ある程度、機械的に、入学前に必要とされる理数系の能力を兼ね備えているかを、数値で判断できる AP は非常に有効だということである。

こうした特定の分野の学力を数値として測ることのできる指針としての他に、AP コースを受講している(あるいは AP テストに合格している)ということは、それ以前からの積み上げがなされていることということの証拠であり、つまり計画性や継続性、といった学生の特性を測る指針ともなると述べる。すなわち、12年生(日本で言えば高校三年生)の段階で、大学レベルの AP コースを受講する(あるいはテストに合格する)た

めには、当然、それ以前（少なくとも9年生か10年生から）の段階から、学習内容を先取りしていく必要であり、その過程を経た上でAPコースを受講、高い成績をおさめているということは、すなわち数年に渡る計画的で持続的な学修がなされてきたことを示しているのである。

また近年、学費の高騰が続く中、多くのAPテストを受けているということは、それはつまり財力的な余力があることも示しており（APコースを受講するのは無料）、こうした情報も（間接的に）学生の特質を知る上で訳に立つと述べる（但し、APの取得単位が多いことが必ずしもアドミッション上、高評価を得るわけではない。あくまで計画的な履修がなされているかが重要であるという）。

## 第2 APの活用について

上記のようにCopper Unionでは、APは学生の選抜という観点からは大いにその価値が評価されているが、APコースの受講とその成績と、APテストの結果を比較した場合には、後者がより優先されるという。これには、12年生に関しては、高校でのAPの成績が出る前に、大学の入学試験は終了してしまっているため、入学直前のAPコースの成績は考慮できないという事情も関与している。アドミッションオフィスが評価できるのは、4年制の前期 Semester までのAPコースの成績（と後期 Semester にどのようなAPコースを受講しているかということ）だけなのである。

College board で聞き取り調査を行った際には、APテストを受けなくとも、コースの受講や成績が評価されるということであったが、少なくともCopper Unionでは、やはりAPは、授業の成績よりもテストの成績が優先され、実際、高校でコースは受講せずに、テストのみを受けるケースはあるが、その逆はかなり少ないということである（この点については、難易度の高い大学に進学したい学生の全体的な傾向であり、その背後には、MOOC（Massive open online course）などで自主的にハイレベルな学習を進める学生が増加していることもあるという）。

興味深いことに、Copper Unionでは、APにパスしていても、実際に、その科目に対する大学の単位が付与されるためには、Cooper独自のテストを受け、それに合格することが必要である。すなわち、APは、確かに大学への入学において有利に働くが、それはあくまで選抜に勝ち残るという点においてであり、大学での単位認定においては、入学後に再度、その力が試されるということにある（このテストは、学期の第一週目に行われ、仮にこのテストに不合格になってしまった場合には、その学生は当然、そのコースについての単位は認められず、改めて受講する必要がある。但し、APテストの受講歴に鑑み、その場合のコースの受講料は無料になるという）。

### 留学生のAPについて

Copper Unionでは、海外からの学生が15%を占める。学部などにもよるので一概には言えないが、海外から入学を希望する学生の約半分がAPを取得して入学してくると



いう。これは国内の学生と同じくらいの割合である。しかし、国内の AP 取得者の合格率は50%以下、海外の学生の合格者で AP 取得者の割合は50%を超える。

つまり海外からの入学希望者に対する入学審査において、AP の取得はより大きな重要度を持っている、と言い換えることができる。これは米国内よりも、さらに入学前の教育システムやレベルなどの把握が難しい海外からの学生の学力を測る際に、基準の明確な AP が寄与しているということである。

以上のように Cooper Union では、前節の Fordham University とは異なり、AP の受講歴、成績、AP テストの成績が、特に入学者選抜の段階で比較的大きな比重を占めていることが今回の調査で分かった。これは、一つには、前者が理数系の大学であり、後者が人文系の大学であるということにも起因するものと思われる。但し、これからは、入学希望者が少しでも進学に有利になる手段として AP を活用していくことが予想され、人文系の大学であっても、その AP の受講者は今後も増加することが予想される。その意味では、入学選抜という現実的な目的のためではあっても、全体として AP の受講者が増えていくことは、(AP のレベルが維持されるという前提で)、高校自体のレベルの底上げ、また高大接続に寄与するものと言えるであろう。

## 第4節 Lakes 高校の AP 実施事例

伊藤 創（関西国際大学）

本節では、AP コースを提供しているワシントン州レイクウッドにある、Lakes high school での AP コース担当教員とその受講者である生徒たちへのインタビュー調査、また実際の AP の授業見学（world history と English composition）で得た情報を報告する。

教員は、AP English composition と AP literature の担当教員が 3 人、AP Math、AP calculus と AP statistics を担当する 2 人の教員、の 5 人で、class adviser など交えながら AP について話を伺った。生徒は現在高校 4 年生で現在、4 つの AP（これまでに 2 年生で 1 つ、3 年生で 3 つの AP を受講）を受講している学生を中心に、その他、二年生の 4 人にインタビューを行った。

### 第1項 教員と生徒への聞き取り調査から

Lakes 高校では、90 分間で AP の授業が行われる（その他の高校では 50 分～60 分が一般的）。受講資格は、科目によって異なる。例えば AP English では、学生にその受講に対する制約はない。つまり受講したければ誰でも受講できるが（もちろん、advisor が一定の制限を助言としてかけるが強制はしない。実際、上記で紹介した 4 年生は advisor には受講数を減らすように助言を受けたが、自らの意思を優先したという）、AP physics では、それ以前にいくつかの必要な単位を習得していなければ受講は認められない（prerequisite）。

AP コースはそれぞれ等価値（単位としては同じであり、どちらが難易度高い、というような区別はない）とされるが、実際には、「AP English composition」→「AP literature」をとるほうが良いといったより好まれる履修順序が存在する。また同価値ではあるが、大学の単位として認めるか、は各大学によるという。例えば、A 大学では、上記の英語科目のいずれも単位として認めるが、B 大学では、AP literature のみを単位として認める、といったケースは起こりうる。また AP コースの成績やテスト結果のどの程度を単位として認めるかも大学によって異なる。すなわち、ある大学では、3 以上を単位として認めるが、より競争率の高い上位の大学では、4 以上のみの成績を認める、といった具合である。その意味では、確かに AP コースやテストの内容は、College Board のいうように、全国一律の基準を保ってはいるが、それはあくまで教えられる内容、あるいはテストで問われる内容、採点の基準が一定である、という意味であり、その中でどこまでの基準を満たせば、大学での単位として認められるか、が異なるわけであるから、そのことによって、（特に selective な）大学側は、差異化を図っていると言える。

また、当然のことであるが、AP の科目には、相性の良い組み合わせがあり、例えば、AP world history と AP US history などは同時期に履修するのが望ましい（実際、AP テストではおなじようなテスト項目が存在するので、テストを受ける際にも有利に働く）とされる。

このようなことから、一つの AP コースを選択すると、必然的に、履修する学生の集合が似通ってくるため、LC (learning community) のようなものが形成され、より学習が深め

られ、また協調性などを学ぶことになるという。もちろん、お互いに切磋琢磨し合いながらより高め合う効果も期待されるという。

AP コースの受講にあたっては、多くの場合、Preliminary SAT（高校2年生、3年生が受けることが多い）の成績が AP potential（AP レベルの授業に絶え得るか）であるかを図る指標の一つとなり、ここから advisor が AP の受講を勧める。但し、こうした優秀な学生でも AP コースの成績の平均は5段階の評価で2~2.5であり、多くの学生が不合格となる（3以上が合格）。また一つのコースで5の成績を取れる学生は数人程度という。不合格になった学生が再度当該コースを受講することは可能だが、殆どの場合、学生は受講しない（もちろん、時間的な制約でとれない場合も多い。特に AP コースは多くの場合は5月に行われるテストに合わせて受講する機会が多いため、こうしたスケジュールを合わない場合は受講を見合わせるケースも多いという）。

また、各 AP コースの担当教員の評価と、AP テストの結果は関連しない。AP テストの結果がでるのは、7月で、教員はそれ以前（6月）に成績を出している。従って、AP テストに合格した学生でも、その AP コースで不合格となるケースもあるし、その逆もまた然りである。

教員が新たに AP コースを始めたいと思った場合、教員は College Board にシラバスを提出する必要がある。A4 の用紙でおよそ十数ページに及ぶ詳細なシラバスが必要である。そのシラバスによって開講が認められた場合でも、3年に一度は改定が必要であり、その際には再度、提出する必要がある。

こうした AP コースを新たに担当する教員に有益なのが、AP 教員のためのセミナーである。このセミナーは、経験が豊かで、かつ優秀な成績をおさめる学生を多く輩出している AP の講師によって担われる。主に、初めて AP コースをもつ教師に対する手ほどきという機能を果たす場合が多いが、その他にも、すでに AP コースを指導している教師が更なる教育効果を求める場合に、様々な示唆を与えたり、お互いのアイデアを共有する場としても有効であるという。参加は自由で、年に数度、1日の短いものから、1週間に渡って行われる長期間のものもある。セミナーは有料であるが、ほとんどの場合、その school district によって支払われるため、教員に費用の負担は無い。

本調査では、AP コースを受講している学生にもインタビューを行ったが、AP コースを担当する先生と、そうでない先生の差（授業に対する姿勢など）を感じると言う意見が多く聞かれ、実際に AP コースでは、他の授業と比較した場合、教員と生徒の関係が良好な場合が多いという。こうした経験をへた生徒が、友人にも AP の受講を勧めることも多いという。

## 第2項 AP コースの見学から

今回の視察では、AP world history と AP English composition の授業を見ることができた。前者では、ちょうど明治維新がテーマで、まず導入として、明治のころの様々な風刺画から、その絵が何をいわんとしているか、またそれについてどう思うか、といったことを教

員主導で、学生から話を引き出すことが行われた。年代や人物を特定して教員が生徒に答えさせるという形ではなく、あくまで自主的に学生が話す中で、補助的に教員が知識を入れていく、あるいは正していく形である。

こうして一定の背景知識が出そろったところで、教員が「明治維新は日本にとって、〈restoration〉であったか、それとも、〈revolution〉、あるいは〈reform〉であったか」というテーマを学生たちに投げかけた。それを学生たちが自分たちで議論する。教員は補足的なコメントをするのみにて、基本的には、学生たちが進行し、議論を戦わせる（授業後に教員から確かめたが、このテーマを設定するにあたり、以前にも他の歴史的事実について、restoration、revolution、reformのそれぞれの定義を導入、また議論しているということである）。

後者の AP English composition では、まずはテキストなどを全く用いずに、「これからアメリカ政府がどこに最も資金を投入すべきか」について議論が行われた。そこでは、環境問題、教育問題、軍拡／軍縮、貧富の差など様々な米国の抱える課題が生徒から出されるが、教員は、なぜそれが優先的な課題なのか、その理由を述べさせる。この導入部で、他人を説得しようと試みる（自らが出した課題が、他の課題よりも優先されるべきなのか、を説得的に述べようとする）ことが次の composition に繋がるわけであるが、この第二段階では、「宇宙開発は資金投入の価値がある」という主旨の一枚の記事を批判的に読むことが課題として与えられる。

特に、この課題では、文章の書き方にこだわって批判的に読むことが指示される。つまり、どの表現やどの箇所が作者の考えや根拠が「恣意的」であったり「非論理的」であったりするか、を指摘させるのである。

こうして、直感的に説得的ではないと感じた文章の、一体どこにその理由があるのか（つまり、どの表現や論理構成に問題があるのか）にその理由があるのか、を見極めることにより、翻って自らの文章をより説得的にする術を学んでいくことになる。

また興味深いことに、この議論と平行して、一枚のロケットの発射の瞬間を写した写真から、宇宙に投資することに価値があるか、について議論することも行われていた。ロケットの発する煙から環境の汚染という問題が指摘されたり、そのロケットを見る人々の姿から知的好奇心や科学的進歩の重要性も指摘される。そこから、経済的な効果や他の国々に対して科学的（軍事的に）に先んじることの重要性といった事も指摘され、議論がさらに深められていく。こうした作業を経て、最終的には、自らでできるだけ説得力のある形で、国民の税金をどこに投資する価値があるか、をレポートとしてまとめるという課題が出される。

以上のように、AP コースでは、知的なレベルが高いことはもちろん、常に、創造性と、議論の力の養成がその根幹にあることが分かるが、実際に、多くの（人文系の）AP コースの教員たちには、こうした力の涵養の必要性が共有されているという。こうした部分が高大接続という観点からもそこに大きく寄与しているものと思われる。

### 第3項 小括

AP コースは、その立ち上げ、実施にかなりの労力を要するが、(そのサポート体制としてセミナーがあることもさることながら)、何よりも教員と生徒のモチベーションがともに非常に高いゆえに、様々な創意工夫によって、Lakes high school では(我々が見た範囲では)非常によく機能しているといえる。ただ、こうした教員のモチベーションの背景には、現在の high school の教員の(給与水準も含めた)社会的な地位の低さ、すなわち、少しでも自らの教員としての価値を対外的に高めたいという negative な理由もあり、また生徒のモチベーションも同じく、より selective な大学に入学するために、少しでも有意な条件を整えておきたい、といった学問的というよりは、社会的な要因も非常に大きいという。

また、AP コースはあくまで「上位の」学生により深い学びを提供するための機会として機能している側面が非常に強いことには注意する必要がある。minority や貧困層に対する様々な資金的な補助は行っており、また、少数の優れた学生をより高みに引き上げることで、学生全体の学力を底上げするという理念も College board の調査からは聞かれたが、実際には、逆に学生間の学力の差をより大きくしてしまう危険性は常につきまとうという(実際に Lakes high school の教員、学生からもそのような所感が聞かれた)。こうした点に留意しつつ、今後も AP コースの動向を見守ることで我々にとっても貴重な教育的な知見が得られるものと思われる。

## 第5節 州・地方教育委員会からみた AP

吉田 武大(関西国際大学)

ワシントン州はアメリカ西海岸最北部の州である。人口は約670万人を数え、日本でもなじみの深いマイクロソフト社の本拠地やボーイング社の工場がある。

本節では、このような地理的社会的状況におかれたワシントン州において、2月26、27および学区教育委員会（Seattle Public Schools、以下SPS）の担当者への聞き取り調査をもとに、ワシントン州におけるAPの現状と課題について報告する。

### 第1項 教育行政機関の業務

SPSは学区内93の公立学校を管理運営している。SPSの組織内では、Advanced Learning Officeが高い能力を有する児童生徒を支援する役割を担っており、その支援業務の中にAPの運営が含まれている。具体的には、AP試験の実施、試験受験者の登録、AP試験を実施するハイスクールの資金面に関する管理、ハイスクールへの助言、そして州からの補助金の分配などといった業務に従事している。また、近年の財政難の中で、限られた州の予算をいかに効率的に高い能力を有する児童生徒に割り当てていくかも重視されており、その一環として、高い能力を有する児童生徒を特定することも重要な業務となっている。

### 第2項 APプログラムへの補助金

SPSの予算のうち、約88%は州からの財政援助によるものであり、約12%は連邦政府からの財政援助に依っている。連邦政府は、以下のような事項に補助金を支給している。つまり、初等中等教育法（Elementary and Secondary Education Act）のタイトルIに規定された所得の低い家庭出身の生徒、ハンデを抱える生徒、そしてAP試験やIB、IGCSE等である。AP試験に関しては、特に所得の低い家庭出身の生徒で、かつAPプログラムを受講している生徒に対する補助金支給がなされている。一方で、高騰する学費をめぐって、すべての児童生徒に対して補助金を支給することは困難であり、所得の低い家庭出身の生徒に焦点を当てて補助金を支出せざるを得ないという側面もある。

### 第3項 AP試験の費用

AP試験をめぐって、カレッジボードは1科目につき89ドルの価格設定を行っている。しかし、所得の低い家庭出身の生徒には、AP試験の費用を55ドルに値下げしている。これらの生徒を資金的に援助すべく、州によってはさらにAP試験の費用を値下げしているところもある。例えば、マサチューセッツ州では、AP試験の費用を無料にしている。また、ワシントン州では、3科目以内に限って15ドルに値下げしている。

#### 第4項 APプログラムを実施するハイスクール

APプログラムを実施するハイスクールは多く、その数は年々増加している。このように増加している背景としては、積極的背景と消極的背景の2つを挙げることができる。

まずは積極的背景についてである。ワシントン州では、マイクロソフト社の本社やボーイング社の工場があることからコンピューターサイエンスに力を入れており、このような労働需要の見込まれる分野の人材を、APプログラムを通して育成したいようである。実際、理数系のハイスクールでは、科学や物理関係の卒業必修4単位のなかに、APプログラムを含めているところもみられる。

次に消極的背景については、ランニング・スタート（Running Start）が行われるようになったことが挙げられる。ランニング・スタートとは、生徒に学習の選択肢を与える取り組みのことである。具体的には、ハイスクール11年生、12年生は、(1)ハイスクールで授業を受ける、(2)ハイスクールで大学レベルの授業を受ける、(3)ワシントン州内の大学、コミュニティカレッジ、技術カレッジで授業を受ける、以上3つのいずれかを選択できるというものである。この制度のために、ハイスクールは、優秀な生徒が大学やコミュニティカレッジに流れてしまうことを危惧する観点から、ハイスクール自身がレベルの高い教育を実施していることを示す必要性が生じたという。このような消極的背景がAPプログラムの導入をさらに促進しているのである。

#### 第5項 AP担当教師の職能開発

ワシントン州では、APプログラムを担当する教員の職能開発を促進するセミナーが年に3回開催されている。そこにおいては、主としてAPプログラムを長年担当した経験豊富なハイスクールの教員が講師を務めることとなっている。また、大学教員や、マイクロソフト社と連携して産業界の人材が講師を務める場合もある。

セミナーは有料であるが、連邦政府からの財政援助により、実質的には無料で受講可能となっている。

なお、近隣のアラスカ州やアイダホ州では上記のようなセミナーは実施されていないため、他の州へ行ってセミナーを受講している。

#### 第6項 小括

以上のようにワシントン州では、教育行政機関がAP試験費用を値下げすることによって、所得の低い家庭出身の生徒の負担を軽減するような措置が取られている。また、理数系人材の育成という積極的背景とランニング・スタートという消極的背景の下、APプログラムを実施するハイスクールは増加している。

今後、APプログラムをより充実したものにしていく上で、限られた財政をいかに効率的に活用してAP試験をさらに多くの生徒に受験させていくか、また、APプログラム担当教員の質をいかに保証するかが、引き続き重要な課題として位置づけられるものと考

えられる。



## 第2章 東アジアにおける AP の普及と評価

### 第1節 中国における高大接続プログラムの実態

小野寺 香（東北大学）

#### はじめに

中国の高等教育機関は 1990 年代以降大規模な量的拡大を遂げ、その結果、教育部の統計に含まれない教育機関も含めれば、世界最大の高等教育人口を抱える国になった<sup>1</sup>。また、そうした量的拡大に加え、21 世紀の「知識基盤社会」に向けた質的改革も同時に行われてきている。具体的には、21 世紀に向けておよそ 100 校の大学を重点的に建設する「211 工程」が 1995 年から開始され、さらに 1998 年からはそのうちの一部の大学について世界レベルとなることを目指す「985 計画」も実施され、北京大学、清華大学、南京大学、上海交通大学等 30 数校がその対象として選ばれた。こうした計画の対象とされる大学には、質的改革のために集中的に資金が投資されてきている。

そして、このように質的にも向上を目指す中国の高等教育にとって、高校（原語：「高級中学」）教育との接続を考慮することも重要となるのは当然であった。なぜなら、大学の質を評価する指標には研究資金の獲得、有名雑誌での論文発表数や被引用論文数等に加えて学生の研究成果に関する指標も含まれるからである<sup>2</sup>。その点において、優秀な新入生を円滑に大学へ進学させ、大学における学習を通していかに優れた研究を行う学生を確保するかという点は、中国における大学にとって特に重要な課題となっている。また、高校側にとっても、生徒の個性を伸ばさせるために、優秀な生徒を対象として大学教育への接続を促す環境を整えることは重要であり、さらにそうした課程を設けることは結果的に高校の特長ともされている。こうした背景から、現在中国では、質的向上を目標とする大学と優秀な生徒が在籍する高校において、教育的接続を促進するための課程が設置されるようになってきている。

また、一部とは言え、近年中国では高校生がアメリカを中心とする海外の大学へ留学するケースが増加してきていることも近年の動向として指摘できる。それは、著しい経済発展を遂げた中国で富裕層が増えてきたことや、「一人っ子政策」の影響で一人の子どもに対して惜しみなく教育投資を行っていることが背景として存在すると考えられる。実際、「小皇帝」とも呼ばれるそうした子どもたちのなかには、安定した家庭の経済力に支えられて海外の大学へ留学する者も少なくない。そうした、海外の大学への進学を希望する者にとっては、その準備を行うための環境を中国の高校に求め、実際それに対応する高校も増加してきている。このように、現在中国の高校では、国内の大学への接続と海外の大学への接続を両方とも促すことが求められていると言える。本稿では、こうした点から中国の高校において実践され

<sup>1</sup>大塚豊『中国大学入試研究—変貌する国家の人材選抜』東信堂、2007年、22頁。

<sup>2</sup>邱均平（主編）『世界一流大学与科研機構学科競争力評価研究報告 2009』科学出版社、2009年。

ている、生徒を国内の大学への円滑な接続を促すためのプログラムと、生徒が特にアメリカの大学を中心とする海外の大学へ進学するためのプログラムについて、その方法や内容を明らかにしていくこととする。

以下では、まず中国における高校と大学の進学率の推移を概観し、そこから中国で高校と大学が果たす役割の変化について検討を加える。次に、現在の高校の教育課程を示し、そのなかで国内の大学への進学を円滑にするための課程が占める位置について言及する。その際、具体的なケースとするのは華東師範大学第二附属高校である。

次に、中国の高校が実践している海外の大学進学に向けたプログラムの考察を行っていく。まずは、中国の高校生の海外留学状況に触れた後、その接続を促すプログラムを実践するための法的根拠をみる。続いて、実際にそうしたプログラムを実践している高校に焦点を当てて、その内容について詳細に検討を行う。その際、プログラムの形態を三つに区分し、それぞれ具体的な事例で説明していくこととする。一つ目は、中国の高校が海外の大学と直接連携を行うケースであり、江蘇省南京市にある金陵高校を事例とする。二つ目は、海外の高校と連携して独自のプログラムを行うケースで、南京市第十三高校と北京師範大学第二附属高校を事例とする。そして三つ目は、海外の高校と連携してアメリカの AP (Advanced Placement) プログラムを積極的に導入するケースで、北京市の王府学校と二十一世紀実験学校を事例とすることとしたい。こうした内容を明らかにすることで、中国で実践される高大接続プログラムの特徴や今後の発展の可能性について検討していきたい。

## 第1項 中国国内の高大接続プログラム

### 第1 中国における高校と大学の進学

上述のように、中国において高等教育は量的拡大を遂げてきたが、その進学率は具体的にどれほどのペースで推移してきたのだろうか。また、大学進学的前提となる高校の進学率はどのように変化してきたのだろうか。ここでは、中国における大学と高校の進学率の推移を検討し、それぞれが担う役割について考察を加えていくこととしたい。そこで、大学と高校の進学率について 1991 年から 2009 年までの推移を示したのが表 1 である。なお、ここで言う進学率とは、高校の場合は 15 歳人口全体に占める高校進学者数の割合を、大学については 18 歳人口全体に占める大学進学者数の割合を指している。

まず、表 1 の「大学」進学率に着目すると、1991 年には全体の 3.5%しか大学へ進学せず、まさに一部のエリートのための教育機関として機能していたことがわかる。また、その後も 1990 年代の大学入学率は一桁が続いているが、徐々に高まっていき 1999 年には 10.5%に達した。さらに、2000 年代に入ってから大学入学率は次第に上昇していき、2002 年には 15.0%、そして 2005 年に 20%台に到達し、2010 年には 26.5%に至っている。こうした数字から、現在中国の大学進学率は、従来と比較すると急激な上昇が見て取れる。また、「国家中長期教育改革と発展計画綱要 (2010-2020 年)」においては、2010 年から 2015 年までの間にさらに高等教育進学率を 36%から 40%まで高めることを目指しており、今後のさらなる上

昇も十分予測される。

表 1 中国における高校と大学の進学率の推移 (%)

年	高校	大学	年	高校	大学
1991		3.5	2001	42.8	13.3
1992	26.0	3.9	2002	42.8	15.0
1993	28.4	5.0	2003	43.8	17.0
1994	30.7	6.0	2004	48.1	19.0
1995	33.6	7.2	2005	52.7	21.0
1996	38.0	8.3	2006	59.8	22.0
1997	40.6	9.1	2007	66.0	23.0
1998	40.7	9.8	2008	74.0	23.3
1999	41.0	10.5	2009	79.2	24.2
2000	42.8	12.5	2010	82.5	26.5

出所) 教育部『中国教育統計年鑑 2010』2011 年、15 頁をもとに筆者作成。

そして、こうした大学進学率の上昇の背景には、大学入学者選抜段階における「画一化」から「多様化」への制度的変化があった。具体的には、受験機会の増加や問題の多様化等が試みられてきた。また、それに加え、市場経済化と関連して建国以来無償であった高等教育に受益者負担の原則が導入され、消費を促すための経済政策の一環として推進された大学入学定員の拡張や、需要が大きな専攻の増設と一方で需要の見込まれない専攻で生徒を確保するための推薦制度等、様々な試みがなされてきたのである<sup>1)</sup>。

次に、表 1 の「高校」進学率についてみると、1992 年には 26.0%であり、高校教育は当該人口全体のおよそ 4 分の 1 が対象となっていたことが見て取れる。しかし、その後は徐々に進学率は高まっていき、2005 年には 52.7%に達している。さらに、2010 年には 82.5%の生徒が高校に進学していることが確認でき、現在の高校教育は多くの生徒を対象としていると言える。なお、中国の高校教育は大きく普通高校と職業系高校の二つに区分され、2010 年の両者の割合は、普通高校が 51.9%、職業系高校が 48.1%と普通高校の方がやや多くなっている<sup>2)</sup>。

そして、こうした高校進学率の上昇に鑑みて、「国家中長期教育改革と発展計画綱要 (2010-2020 年)」では、普通高校は高等教育機関へ優秀な生徒を送り出すと同時に、質の高い多くの労働者を養成する必要があることが繰り返し述べられている。また、そのためには生徒の多様化に対応し、彼らの成長を促進するため、それぞれの生徒に適した教育を提供することの必要性についても言及している。高校教育は、大学教育とも小中学校教育を含む義務教育とも接続していることから、基礎的内容から高等教育進学のための教育まで多様な内

<sup>1)</sup>大塚豊『中国大学入試研究—変貌する国家の人材選抜』東信堂、2007 年、186-233 頁。

<sup>2)</sup>教育部『中国教育統計年鑑 2010』2011 年、14 頁。

容が含まれている<sup>1</sup>。今後、こうした多様な内容を扱う高校教育において、それぞれの生徒のニーズや関心に適した教育を提供することがより求められているのである。それでは、生徒の多様化に応じた教育とは、具体的にどのように提供されているのだろうか。以下では、教育部によって規定される教育課程に焦点を当てることによって、その点を明確にする。

## 第2 中国の高校教育課程

上述のとおり、現在中国では高校進学率が高まり、高校では多様な生徒を受け入れている。そのため、教育課程についても、それぞれの生徒の個性に応じた「多様化」が求められている。そこで、ここでは中国の高校における教育課程を具体的にみて、その「多様化」の実態について明らかにしていくこととする。

中国では1999年頃から2000年代半ばにかけて、就学前教育から普通高校までの教育課程改革が進行してきた<sup>2</sup>。そのなかで普通高校の教育課程は、多様な課程設置や選択履修を通して、様々な人材を養成し、社会における様々なニーズに応えるべきであるとされた。また、普通高校教育課程改革の目標の一つとして、学校に対して合理的で十分な課程自主権を与え、学校は創造的に国家教育課程を実施することに加え、それぞれの状況に応じて学校課程を開発し、生徒にとって有効な選択課程を提供することが求められている。そして、課程管理の主体は、国家（教育部）、地方、学校の三つのレベルに区分し、なかでも特に学校に対する自主権が強調された<sup>3</sup>。

また、普通高校教育課程改革の最大の特徴は、課程の枠組みの変化である。従来は、すべての生徒が同一時間に、同一ペースで、同一内容を学習し、さらに同一基準を達成することが要求されていたが、こうした画一性の弊害を打破するために、最大限に生徒の個性を促進し、生徒の多様なニーズに応じて、教育課程の枠組みを「領域」や「学科」等に細かく区分した<sup>4</sup>。そして、こうした改革を経て国家によって規定された教育課程を示したのが表2である。

表2から確認できるように、国家が規定する教育課程では、学習領域として「言語と文学」、「数学」、「人文と社会」、「科学」、「技術」、「芸術」、「体育と健康」、「総合実践活動」という八つの分野に区分されている。また、各学習領域には複数の科目が含まれており、それぞれの科目での必修単位が明確に規定されている。そして、それらの必修単位の合計は116単位である。こうした必修課程のうち、「技術」と「芸術」は新たに設定された科目であり、外国語に関しては、条件が整う学校では複数の外国語科目を開設することが促されている。また、国家が規定するこうした教育課程では、一般的な教科科目の他に「総合実践活動」が含まれており、それは全体の116単位のうち23単位を占めている。

---

<sup>1</sup>付宜紅（主編）『普通高中課程建設与管理』北京師範大学出版社、2010年、1-2頁。

<sup>2</sup>楠山研『現代中国初中等教育改革の多様化と制度改革』東信堂、2010年、76-79頁

<sup>3</sup>付宜紅（主編）『普通高中課程建設与管理』3頁。

<sup>4</sup>同上、4頁。

表2 国家が規定する高校教育課程

学習領域	科目	必修単位
言語と文学	国語	10
	外国語	10
数学	数学	10
人文と社会	思想政治	8
	歴史	6
	地理	6
科学	物理	6
	化学	6
	生物	6
技術	技術	8
芸術	芸術、音楽、美術	6
体育と健康	体育と健康	11
総合実践活動	研究性学習	15
	コミュニティサービス	2
	社会実践	6
計		116

出所) 付宜紅(主編)『普通高中課程建設与管理』北京師範大学出版社、2010年、279頁をもとに筆者作成。

「総合実践活動」に含まれる「社会実践」では、生徒は毎学年につき一週間の軍事訓練や農業等の社会実践活動に参加する。また、「コミュニティサービス(原語: 社区服務)」では、生徒は三年間で10日以上の時間を充てる必要があると示されている。「コミュニティサービス」は、学校側が提供するサービス内容でも、生徒自身が決定する内容でも良いが、後者の場合は学校による審査が必要となり、実践はグループで行う。単位の認定は、「コミュニティサービス」の実践過程での生徒による記録や、コミュニティ側が提供する実践報告内容や実践時間に関する資料に基づき、学校が行う。また、「研究性学習」については、何らかのテーマに関する研究内容をレポート等にまとめるものである。「研究性学習」の15単位は、三年間の累計であり、学校は生徒や教員の状況に応じてその内容を組み立てることができる。例えば、三つの課題を課し、それぞれ5単位としてもよいし、大課題と小課題を一つずつ課し、それぞれ10単位と5単位としてもよい。また、一つの課題のみで15単位を認定することも可能である<sup>1)</sup>。

また、上述のとおり、高校の教育課程の管理主体は、国家、地方、学校という三段階に区

<sup>1)</sup>同上、11-12頁。

分されている。表 3-2 に示した内容は国家によって規定される課程であることから、それに加えて、地方や学校が管理する教育課程も別に設けられるが、そうした課程は選択課程として設定されることになっている。具体的には、「選修単位Ⅰ」と「選修単位Ⅱ」として定められており、「選修単位Ⅰ」は、人材の多様化に対する社会のニーズに基づき、生徒の様々な潜在能力や発達のニーズに応じ、必修課程を基礎とし、各課程標準の分類別に、レベルを分けて選択科目を生徒に提供するものである。「選修単位Ⅱ」は、学校が各地域における社会、経済、科学技術、文化的発展のニーズや生徒の関心に応じて選択科目を提供するものである。そして、生徒は「選修単位Ⅱ」のなかから最低 6 単位を修得し、国家課程と合わせて合計で 144 単位の修得が必要とされている。なお、この 114 単位に関して、「生徒は毎学年すべての学習領域において一定の単位を修得しなくてはならない。」と規定されており、学年ごとの学習に偏りが生じないように配慮がなされている<sup>1</sup>。

このように、中国の高校の教育課程の管理に関しては、国家、地方、学校という三段階に区分されており、学校は選択科目として各地域や生徒の状況に鑑みてニーズの高い課程を設定することができる仕組みとなっているのである。そして、教育課程におけるこうしたシステムが、生徒の「多様化」への対応の一つであると言える。大学教育との接続という観点から言えば、それを重視する高校は、選択科目の枠を活用して大学と連携した独自の課程を設けることが可能なのである。そこで、以下ではそうした課程について具体的にみていく。

### 第 3 高校における「荣誉課程」

ここでは、高校の教育課程において、生徒を中国国内の大学へ円滑に進学させることを目的とする科目としてはどのようなものが提供されているのか、華東師範大学第二附属高校を例に検討していくこととする。華東師範大学第二附属高校は、上海市内のトップクラスの高校である。また、教育課程の改革に積極的に取り組んでおり、生徒の個性を伸長するため学期ごとに多くの選択科目を設定している。そして、そのなかには生徒の学年に関わらず履修することが可能な科目も設けられており、したがって生徒にとって履修の選択の幅は広がっていると見える<sup>2</sup>。

この華東師範大学第二附属高校で、大学教育との接続を念頭に置いて設置される特徴的な選択課程としては、「荣誉課程」が挙げられる。この「荣誉課程」は、国家規定の教育課程を履修し終え、さらに余力のある生徒を対象として提供するものである。これは、もともと主に理系科目で特に優れた成績を修める生徒の知識や関心を満たすために設置された、一般の理系科目よりもレベルの高い理系課程であり、1980 年代に開始された。高校での成績が優秀で、確実に余力のある生徒に対しては、より多くのことを学習させ、彼らの潜在能力を十分に発揮させることが彼らにとって最も良い奨励であり、最高の荣誉を与えることとなる。こ

---

<sup>1</sup>同上、14 頁。

<sup>2</sup>華東師範大学第二附属中学。「学校概況」

<<http://www.hsefz.com/hsefz/userpage/xxgk/default.asp>>

うした考え方から、「榮譽課程」という名称となっている<sup>1</sup>。

現在、「榮譽課程」の内容は二種類に分類されている。まず一つ目は、高校の理数系基礎知識を広げ、大学の教育課程と接続する内容を多く含んだものである。この課程を念頭に置き、「高中数学」、「高中物理」、「高中化学」の教材が出版され、実際にそうした科目に関して余力のある生徒は活用している。二つ目は、高校三年生の生徒で大学への推薦資格を得た優秀な者を対象として開設される「数学分析」、「線形代数」、「大学英語四級」、「C++言語設計」、「文献検索」等である。これらの課程は、上海交通大学や華東師範大学の教員が担当することになっている。そして、こうした科目を履修して得た単位は上海交通大学等によって認定される仕組みである。この仕組みは 2002 年から開始され、それに含まれる科目としては基礎科学課程がメインとなっており、高校と大学の科学教育の接続を促す一つのシステムであると言える<sup>2</sup>。現在は、「榮譽課程」として計 10 科目が提供されており<sup>3</sup>、そこでは、生徒は自学、討論、研究を行うことが要求されている。また、授業のスタイルとしては、特に優秀な生徒に授業をさせる場合もあり、そうしたケースでは、授業の前半は生徒が授業を行い、後半は生徒全体で討論を行うという流れとなる。

このように、華東師範大学第二附属高校では、国家によって規定される教育課程の他に、高校が独自に設定する選択課程において、「榮譽課程」として大学との接続を念頭においた課程が設けられている。ただ、こうした国内の大学教育との接続を円滑にすることを目的とした課程を設置できる背景には、同高校が華東師範大学の附属高校であり、中国国内でもトップレベルの学校であるために大学との連携が行いやすいといったことがあることは確かである。現在、こうした課程の設置が中国の一般的な高校においても積極的に行われているとは言いがたい。ただ、今後の高等教育の発展計画に鑑みると、今後こうした取り組みが広がる可能性も十分に考えられる。

では、次に中国国内の大学ではなく、海外の大学に焦点をあてたとき、中国の高校は生徒を円滑に進学させるためにどのような取り組みを行っているのだろうか。以下では、この点について明らかにしていくこととする。

## 第2項 海外の大学との連携

### 第1 高校卒業後に海外留学する生徒の増加

ここでは、海外の大学へ生徒をスムーズに進学させるために中国の高校が取り入れている方法について言及する前に、まずは中国の高校生が海外の大学へ留学する状況やその背景等について検討を加えていく。

近年、中国では海外の大学へ進学する生徒数が以前よりも増加してきていることが指摘され

---

<sup>1</sup>華東師範大学第二附属中学、「榮譽課程」

<<http://www.hsefz.com/hsefz/userpage/research/setting/honour.asp>>

<sup>2</sup>華東師範大学第二附属中学『基于提升国际竞争力的高中校本课程建设』144 頁。

<sup>3</sup>同上、156-157 頁。

ている。例えば、北京市、上海市、天津等の都市部では、中国国内の大学入学試験である「高考」の受験を放棄し、海外の大学へ留学する生徒数が年に 20%のペースで増加しているという<sup>1</sup>。そして、教育部が公布したデータによれば、2010 年に「高考」を放棄した人数は 100 万に達すると予測されているが、そのうち海外へ留学するために受験を放棄したのは 21.1% であり、この割合は往年より 1 割増加していた<sup>2</sup>。こうした留学熱に対しては否定的な意見もみられるが<sup>3</sup>、右肩上がりの留学生数は、中国における留学熱の高さを示すものとなっている。

また、近年海外の大学へ留学する中国の高校生に関しては、その量的増加のみならず、質的にも変化がみられてきている。というのは、以前は成績が優秀ではない裕福な家庭出身の生徒が国内の「高考」受験を放棄し、アメリカのコミュニティカレッジや比較的入りやすい四年制大学へ留学していたが、近年では学力の高い優秀な高校生も「高考」を受験せずに海外の有名大学へ進学するようになってきているのである<sup>4</sup>。

そして、こうした量的にも質的にも変化を遂げながら上昇する留学熱を背景として、中国の高校には海外の大学への進学を目指す生徒を対象とした課程が特別に設けられるようになってきている<sup>5</sup>。こうした課程は、高校の一般的なコースと区別して「国際班」や「出国班」と称され、いわゆる「名門校」に多く設置されている。そして、そこでは海外の教育機関との連携等をとおして、海外の大学への留学に有利となる様々な教育課程を実践しているのである。こうした「国際班」の学費は、一般的なコースの学費と比較すると極めて高く設定されるケースが多いが、それでも入学希望者は後を絶たないのが現状である<sup>6</sup>。「国際班」の設置目的としては、外国の教育課程や教学方法を導入することによって、学術面での発達に加えて国際的な視野を有する、優秀な高校生を育成することであるとされているが<sup>7</sup>、それを支えているのは高い留学熱であることは言うまでもないだろう。

では、なぜそれほどまでに中国の高校生は海外の大学への進学を望み、「国際班」への参加を希望するのだろうか。その要因としては、経済的な豊かさに加えて、親が子どもの進学へのプレッシャーを軽減させたいと考えていることも指摘できる。実際、「多くの外国の大学は試験を複数受験し、そのなかで最も良い成績をもって入学の申請を行うことが可能であるが、中国国内では基本的に試験は一度となっており、それは子どもにとってプレッシャーが大きいために避けたい」と考える保護者もみられるのである<sup>8</sup>。また、大学入学試験のプレッシャーを避けて海外の大学へ進学した後のことも配慮しているのが「国際班」の教育スタイルで

---

<sup>1</sup> 『中国教育報』2010年7月28日。『中国教育報』2011年4月2日。

<sup>2</sup> 『中国教育報』2010年7月28日。

<sup>3</sup> 『中国教育報』2011年4月23日。

<sup>4</sup> 『中国教育報』2010年7月28日。

<sup>5</sup> 唐盛昌「我国高中引入国際課程応関注幾個問題」『教育発展研究』2010年、第22号、12-19頁。

<sup>6</sup> 『中国教育報』2011年4月2日。

<sup>7</sup> 同上。

<sup>8</sup> 同上。



あり、そのため入学者希望者が多く集まるのである。具体的に言えば、「国際班」では、生徒が海外の大学へ進学することを前提として、北京師範大学第二附属高校は、様々な社会活動や討論の時間を設けている<sup>1</sup>。

留学希望者にとって、こうしたメリットを備える「国際班」であるが、もう一つの性格も見取することもできる。それは、伝統的な名門校の一般的なコースに入学するだけの優秀な成績を修めることができない生徒が、高い学費を支払って名門校への入学を果たすためのシステムとしての性質である。例えば、北京師範大学第二附属高校の場合、一般コースとは異なり、「国際班」への入学希望者は英語の能力は高いレベルが要求されるが、その他の一般科目の成績についての要求はそれほど高くない<sup>2</sup>。また、首都師範大学附属高校の入学試験における例年の合格点数は 530 点ほどであるが、「国際班」の場合はそれよりも最大 30 点も低くなるという<sup>3</sup>。

では、こうした「国際班」の設置に関して、法制度的にはどのような背景があるのだろうか。以下では、この点について具体的にみていくこととする。

## 第 2 「中外合作弁学」に関する政策

上述のように、中国の高校において海外の教育課程を実践する「国際班」の制度的背景には、「中外合作弁学」に関する規定が存在している。ここで「中外合作弁学」とは、中国と外国の教育機関が、共同で中国国内において中国人生徒を対象として行う教育活動を指す。つまり、中国の高校生が将来海外の大学へ留学するために中国の高校に在籍しながら海外の教育課程を履修する「国際班」のシステムは、「中外合作弁学」に該当するのである。では、「中外合作弁学」に関する法制度は、これまでどのような経緯をたどってきたのだろうか。以下では、この点についてみていく。

中国において「中外合作弁学」は、1978 年の改革開放路線への政策転換によって海外の教育機関が中国国内へ進出したことに始まる。具体的なプログラムとしては、1986 年 9 月にジョンズホプキンス大学 (Johns Hopkins University) と南京大学が共同投資・共同運営協定書に調印し、「米中文化研究センター」を設置したのが最初であると言われている。そして、その後は、1989 年における政治的混乱による停滞もありながらも、社会主義市場経済体制への移行や世界貿易機構 (WTO) への加盟を背景として教育分野における国際化も加速していき、「中外合作弁学」に関する法的整備も徐々に行われてきた<sup>4</sup>。

例えば、1993 年に『『中外合作弁学』の問題に関する通知 (原語：关于境外机构和個人来華合作弁学問題的通知)』が公布され、このなかでは「中外合作弁学」に対して積極的な姿勢を示したが、管理運営面における監督や中国の法令順守の強化等の慎重さについても言及し

---

<sup>1</sup>唐子恵「高中国際班奏响留学前奏」『教育旬刊』2011 年、40 頁。

<sup>2</sup>同上。

<sup>3</sup>『中国教育報』2011 年 4 月 2 日。

<sup>4</sup>『中外合作弁学認証体系的构建与運作』1-4 頁。

ている。また、1995年には「中外合作弁学暫行規定」によって、「中外合作弁学」の意義やその必要性について言及し、「中外合作弁学」を行う範囲、その主体や認可主体、認可までの手続き等について定めている。さらに、1996年の『「中外合作弁学」における学位授与管理を強化するための通知(原語: 関于加強中外合作弁学活動中学位授与管理的通知)』において、中外合作弁学による学位発行に関してプログラムの質保証について強調している。そして、2001年のWTOへの正式加盟を経て、中外合作弁学に関するさらなる法的整備の必要性が指摘されるようになり、そうした流れの中で2003年3月に「中華人民共和国中外合作弁学条例」が施行されたのである。これは、中外合作弁学に関する専門的な条例となっており、中外合作の法的整備にとって重要な意味を持つものとされている。また、2004年には2003年の「中華人民共和国中外合作弁学条例」を施行するため「中外合作弁学条例実施弁法」が制定された<sup>1</sup>。

ここで、「中華人民共和国中外合作弁学条例」を具体的にみると、「中外合作弁学」を行う主体については、第六条で「中外合作は様々な教育機構が行うことができるが、義務教育段階や軍事、警察、政治等の性質を備えた教育機構は例外である。」としている。また、第七条では、「宗教関連の主体についても、中国国内での合作弁学活動は行うことができない。さらに、中外合作弁学機構は、宗教教育の実施や宗教活動を展開することができない。」と規定している。そして、「中外合作弁学」を実際に行うための申請に関しては、第十二条で、「中等学歴教育や学前教育等における中外合作弁学機構は、その所在地の省、自治区、直轄市人民政府教育行政部門の批准を受ける。」としている。こうしたことから、高校教育段階で「中外合作弁学」を行うことは法的根拠に基づいており、その申請は例えば北京市の高校であれば、北京市の教育委員会に対して行うことになる。

では、実際に中国の高校はどのように「中外合作弁学」を行っているのだろうか。これには様々なスタイルが含まれているが、以下ではそれを大きく三つに区分してそれぞれ検討していくこととする。一つ目は、中国の高校と海外の大学が連携するケースである。二つ目は、中国の高校と海外の高校が連携して海外の教育課程を運営するケースである。そして三つ目は、中国の高校と海外の高校が連携して、アメリカを中心に世界規模で普及が進んでいるAPプログラムを実施するケースである。まずは、一つ目のケースについて、南京市金陵高校を例に具体的にみていくこととする。

### 第3 金陵高校の例

南京市金陵高校は、江蘇省の重点学校の一つであり、海外との交流も積極的に行っている。

---

<sup>1</sup>張民選・李亜東(編)『中外合作弁学認証体系的構建与運作』1-4頁。馮国平『跨国教育的国際比較研究』2010年、11-15頁。叶林「第5章 中外合作弁学の展開」黄福涛(編)『1990年代以降の中国高等教育の改革と課題』広島大学高等教育研究開発センター、2005年、45-66頁。

例えば、実際にアメリカのアリゾナ大学（University of Arizona）や、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（University of California Los Angeles）と提携しながら、独自のプログラムを運営しているのである<sup>1</sup>。以下では、そのうちカリフォルニア大学ロサンゼルス校と共同で行っているプログラムについて、具体的にみていくことにする。このプログラムの内容は、アメリカの大学教授が一定期間、中国の高校において講義を行い、金陵中学の生徒がそれを受講し単位を修得した場合、その単位は大学のもので扱われるというものであり、ES（Early Start）プログラムと称されている。同プログラムはアメリカの大学への留学を志す優秀な中国の高校生を対象としたものであるため、高校での成績が優秀な2年生あるいは3年生の生徒が対象となっている<sup>2</sup>。

プログラムへの参加資格としては、各科目の平均成績が80点以上であること、英語の基礎能力を既に身につけており、英語の成績が80点以上であること、学力面や精神面等を総合的に見て優秀であり、アメリカの大学での学習への適応が可能である見込まれることが挙げられている<sup>3</sup>。そして、こうした条件を満たした生徒は、表3に示す科目を選択履修することになる。

表3に示す科目は、実際にカリフォルニア大学で提供されるものと同じ正式な科目である。具体的には「環境と社会」、「人文地理」、「アメリカ政治」、「アメリカ史（19世紀）」、「アメリカ史（20世紀）」という文系の5科目であり、各科目の単位数は5単位となっている。つまり、生徒がこれらの5科目を全て履修した場合、大学の25単位を修得することができる仕組みとなっているのである。また、この単位はアメリカにおける他大学に移動させることも可能である。そのため、高校卒業後に必ずしもカリフォルニア大学へ進学する必要はないのである。科目が提供される期間についてみると、単位計算上は合計授業時間数を満たせばよいので、「環境と社会」と「人文地理」は4カ月間、「アメリカ史（20世紀）」は3カ月間、「アメリカ政治」と「アメリカ史（19世紀）」は2カ月間と様々である。

また、科目の内容についてみると、5つの科目に共通して言えるのは、授業中の討論、グループのプレゼンテーション、筆記試験、大量の文献講読等、多くの課題が課されることである。また、既述のとおり、同プログラムは、アメリカの大学教員が実際に金陵中学において科目を提供するが、その際には例えば教材や教授法等を含め、完全にアメリカの教育システムを採用しているのである。したがって、プログラムへ参加する生徒は、実際にアメリカへ留学する前に既にアメリカの大学の高い水準を経験することが可能となる。これは、アメリカ留学を目指す生徒にとっては非常に有益な内容となると指摘できる。

---

<sup>1</sup>金陵中学、「金中簡介」

<[http://www.jlhs.net/\\_siteId/65/pageId/23/channelId/2/columnId/5/subColumnId/20/lickId/20/ListColumn.aspx](http://www.jlhs.net/_siteId/65/pageId/23/channelId/2/columnId/5/subColumnId/20/lickId/20/ListColumn.aspx)>

<sup>2</sup>金陵中学、「金陵中学中美 ES 項目」

<[http://gjb.jlhs.net:7070/jzgj/site\\_jsps/index.jsp](http://gjb.jlhs.net:7070/jzgj/site_jsps/index.jsp)>

<sup>3</sup>同上。

表3 金陵高校のESプログラム内容

科目名	内容	期間	単位
環境と社会	社会科学の視点から、人類と環境の関係について学習し、地球上の様々な地域における環境変化とその原因について考える。学生は、関連する各種文献の講読に加え、授業中は討論に参加しなければならない。また、筆記試験やグループでのプレゼンテーションも行う。	2010年9月 から 2010年12 月	5
人文地理	地球環境と人類の活動の関連について考え、経済、社会、政治等において関係する領域で人類と地球環境について自ら判断・理解する。学生は、関連する各種文献の講読に加え、授業中は討論に参加しなければならない。また、筆記試験やグループでのプレゼンテーションも行う。	2010年9月 から 2010年12 月	5
アメリカ政治	異なる政治体系の学生が、アメリカの政治についての理解を深めることを目的とする。また、中国とアメリカの政治体系を比較し、学生が関心のあるテーマについて、中国の角度からみた分析を行う。学生は、多くの関連文献を読むことに加え、毎週の小テストや期末試験等を受けなければならない。	2010年12 月から 2011年1月	5
アメリカ史 (19世紀)	1790年から1900年までの文化、政治、経済発展及び社会活動等の、現代アメリカ社会の形成に関するすべての内容について学習する。学生は、アメリカ政治文化の変遷、奴隷制、アメリカ南北戦争等に関する様々な文献を読む必要がある。	2011年2月 から 2011年3月	5
アメリカ史 (20世紀)	1900年以降の文化、政治、経済発展及び社会活動等の、現代アメリカ社会の形成に関するすべての内容について学習する。学生は、第一次・第二次世界大戦中のアメリカの地位と実力、冷戦、アメリカ経済回復後の文化等に関する様々な文献を読む必要がある。	2011年3月 から 2011年5月	5

出所) 金陵中学 (2011). 「金中中美 ES 項目 (UCLA 大学課程) 2010 秋季—2011 春季学年課程簡介。」

<[http://gjb.jlhs.net:7070/jzgj/site\\_jsps/content.jsp?CNTID=385&CHNID=TP\\_JZ\\_XMJS](http://gjb.jlhs.net:7070/jzgj/site_jsps/content.jsp?CNTID=385&CHNID=TP_JZ_XMJS)>  
をもとに筆者作成。

このように、レベルの高い内容の授業を提供するのは、同プログラムが中国の高校生を単にアメリカの大学に留学させることにとどまらず、むしろアメリカでの留学を成功させることを目的としているからである。実際、これまでのプログラム参加者は、アメリカの大学へ

進学後もその成績は優秀で、2009年の留学生の大学でのGPAの値は3.61で、大学生全体の平均成績を大きく上回っていたのである<sup>1</sup>。

さらに、アメリカのトップ大学への留学を希望するすべての中国人学生は、成績証明書、SATとTOEFLの点数、そして教員による推薦書を提出する必要があるが、この点に関連して同プログラムへ参加する生徒は、次のようなメリットも得ることができる。例えば、カリフォルニア大学ロサンゼルス校のようなトップ大学から成績証明書を得ること、さらに同大学の教授からの推薦書を得ることができ、こうした書類を提出することは、入学者選抜の際に非常に有利に働くのである<sup>2</sup>。

このように、金陵中学ではアメリカの大学との提携によって、中国の高校生がアメリカの大学へ留学することを支援している。実際にアメリカの大学で提供される科目を、アメリカの大学教授が中国の高校において行うことから、ほとんどアメリカの大学と同じ環境を中国の高校でも作り出しているのである、

ただし、こうした海外の大学との連携によって提供される科目は、選択科目として位置づけられており、基本的には国家が規定する教育課程を履修する必要があることは留意すべきである。なお、そのように中国の教育課程と海外の教育課程を複線的に履修するシステムが「中外合作弁学」では最も有効なモデルであると指摘されており、金陵高校のケースも当てはまると言える<sup>3</sup>。また、高校が管理主体である選択課程を活用して大学教育との接続に焦点をあてた科目を設定するという点では、上述の華東師範大学第二附属高校における「荣誉課程」とも共通していると言えよう。

では、中国の高校と海外の高校が連携した「中外合作弁学」では、どのような内容が行われているのだろうか。以下では、海外の高校と連携しながら中国人高校生の海外留学を円滑にするためのプログラムを行うケースを検討していく。

### 第3項 海外の高校との連携によるプログラム

ここでは、中国の高校が海外の高校と連携して、生徒が海外の大学へ進学するのを促すプログラムを実践するケースに焦点をあてていく。具体的な事例としては、まず南京市第十三高校を取り上げ、次に北京師範大学第二附属高校についてみていくこととする。

#### 第1 南京市第十三高校

南京市第十三高校は、1955年に創設され1958年に重点高校に指定された高校であり、2005年からカナダとの「中外合作弁学」プログラムを行っている。南京市第十三高校では、このプログラムを行うことによって、生徒が英語のレベルを上達させることに加え、海外の教育

---

<sup>1</sup>同上。

<sup>2</sup>同上。

<sup>3</sup>謝艷珍「中外合作高中教育双軌制動行模式的可行性研究」『遼寧教育研究』2005年第4期20-21頁。

課程を経験することで中国文化と西洋文化を総合的に受け入れることを目指している。

そして、その教育課程については、中国の国家教育課程の完成に加えて英語強化課程やカナダの教育課程を履修する仕組みとなっている。表4は、南京市第十三高校において開設されているカナダの教育課程の一部を示したものである。

まず、表4から、カナダの教育課程の履修に関しては、その生徒の学年が科目ごとに定められていることが確認できる。具体的にみると、高校一年生の生徒はまず基礎的な英語科目である「9年級英語課程」を履修する必要がある。この「9年級」とは、カナダの高校において、9年生の生徒を対象とした科目であることを示し、表4中の他科目についても同様である。また、高校一年生の生徒は、表4にある「9年級英語課程」以外に、表には掲載していない「10年級英語課程」も履修する。「10年級英語課程」は、カナダの高校10年生の生徒を対象とする科目であり、内容としては第二言語としての英語学習に関するものである。英語での口頭表現、リーディング、ライティング等においてその流暢さと正確さを養い、学習や社会的コミュニケーションに適応できるようにすることを目的としている。また、生徒は、授業中の討論、講演、作文等の活動へ参加を通してリスニング力やスピーキング力を高めることも目指す。

表4 南京市第十三高校の国際課程（一部）

学年	課程名	課程内容
一年	9年級 英語課程	スピーキング、リーディング、ライティング等における英語能力を発展させる。歴史的文学作品と現代のものを比較分析し、文字や図表表現等を理解する。生徒のコミュニケーション能力や表現力の育成に重点を置く。
二年	9年級 カナダ地理	カナダの地形や地質、それが形成された要因等について学習する。カナダの自然、人類、経済、文化や環境、及び他国との関係について探ることを通して、生徒は様々な地理学的知識を運用し、地理問題について論ずることができるようになる。
	10年級 数学原理	調査研究、運用スキル、理論推理を通して事物間の関連に対する深い認知力を身につけ、問題解決能力や代数に関するスキルを向上させる。生徒は線形に関連する問題を解くために二次方程式を探索・運用し、図形の異なる性質を区別するために幾何学に関する知識を運用し、三角形の相関知識を身につける必要がある。
三年	12年級 英語課程	学習や生活において必要とされる文学、コミュニケーション力、創造性のある熟考を養う。生徒は深みのある文学内容、文字や図表といった文章、さらに異なるスタイルの口頭表現や図面等が果たす役割に関して様々な比較を行う必要がある。本課程では、生徒が流暢に、そして自信を持ちながら学術英

		語を活用できることを目指す。
	12年級 地球空間科学	地球科学の基礎概念と人類の活動との関連について重点を置く。課程では、生徒が関連する天文学、生物学、化学、数学及び物理学の知識を直接観察したり応用したりもする。

出所) 現地で収集した資料より、筆者作成。

次に、高校二年生の生徒は、表4に示した「9年級カナダ地理」、「10年級数学原理」に加えて「10年級リーディングとライティング課程」、「11年級英語課程」等を履修する。「9年級カナダ地理」は、表4にあるとおり、カナダの地理やその歴史等の他にも文化や経済についても学習する内容となっている。また、「10年級数学原理」では、代数や幾何学に関する知識やスキルの応用を学ぶ。そして、「10年級リーディングとライティング課程」では、豊富な文学知識を生徒へ提供し、また、生徒は文章を読む過程においてその重要個所を探し、文章の概要や鍵となる内容を描写し、語彙を豊富にし、読解力を高めることを目指す。さらに、「11年級英語課程」では、生徒が学習や生活で必要となる文学的知識、コミュニケーション能力、創造的思考を発展させることを目的としている。生徒は、様々な文学内容を比較し、文章表現、口語表現、図表表現等について学ぶことになる。

そして、高校三年生の生徒は、表4に示した「12年級英語課程」と「12年級地球空間科学」に加え、「12年級生物」や「12年級微積分とベクトル」等の科目を履修する。まず、「12年級生物」については、生物系統の概念や生物学のプロセスについて学習する。具体的には、生徒が生物化学、代謝、遺伝等について学び、それらに関する詳細な知識を身につけることを目的としている。次に「12年級微積分とベクトル」では、生徒が身につけている数学的知識を基礎として、応用問題に取り組む課程となっている。また、大学において数学や物理学を学ぶ生徒に対しては、それらに関する基礎的な知識も提供する。

基本的に、こうしたカナダの教育課程は、連携するカナダの高校から招聘した教員が担当しており、現在は10名の教員がそれに該当している。一方で、国家規定の教育課程については中国の教員が担当しているが、そうしたカナダの教育課程を履修することを希望する生徒のために、中国の教育課程において、特に英語と数学については経験が豊富でレベルの高い教員を配置するようにしている。そうすることで、中国の教育課程とカナダの教育課程の接続を図ることを目的としているのである。

このように、南京市第十三中学においては、カナダの高校と連携しながら、中国の国家教育課程を基本としつつも選択的にカナダの教育課程を履修することができる仕組みが整備されている。また、カナダから教員を招聘して授業を行うことで、生徒の英語力の上達に加えて西洋文化にも触れることが可能となり、中国人高校生の海外留学に有効な環境となってい

ると指摘できる。では、さらに別の高校ではどのような取り組みを行っているのだろうか。以下では、北京師範大学第二附属高校について検討していくこととする。

## 第2 北京師範大学第二附属高校

ここでは、北京師範大学第二附属高校を取り上げて「中外合作弁学」について具体的にみていく。北京師範大学第二附属高校では、中国国際教育交流中心とアメリカの ACT (American College Test) が、中国の高校教育の特長を考慮して共同で開発した中国人生徒のための国際課程である PGA (Project of Global Access) を導入している。そして、この PGA は、北京市教育委員会の批准を受けた「中外合作弁学」であり、将来海外の大学への進学を目指す生徒を対象として実践されている。

PGA 課程は、中華民族の文化と国際的な視野を身につけることを通して、将来自国の文化を超えた国際的な人材となるための基礎を備えた生徒を育成することを目標としている。具体的には、生徒は、三年間の高校教育を通して、中国の国家教育課程を履修することに加え、英語を用いて学術交流を行うことができる能力を身につける。また、西洋文化と中国文化との相違点等についての理解を促し、アメリカやその他の主要英語圏の大学への進学に備えることを目指している。

教育課程に関しては、まず生徒は国家が規定する教育課程を履修して単位を修得する一方で、PGA 課程において、英語コミュニケーション能力、数学、数的処理能力、科学、計算機利用能力、ビジネス等の科目を選択的に履修していく。そして、この PGA 課程によって修得した単位は提携を結ぶアメリカの高校との互換が可能となっており、さらにアメリカを中心とする諸外国の大学でもその成績を認めている<sup>1</sup>。

こうした「中外合作弁学」の教員については、中国人教員に加えて外国籍教員も存在している。基本的に、中国の教育課程に関しては中国人が担当し、一方で PGA 国際課程に関しては外国籍教員が担当する仕組みとなっているのであるが、なかには中国人教員でも国際課程を担当する者もみられる。外国籍教員は、主に提携先のアメリカの高校から派遣されるが、他にもイギリス、オーストラリア、ニュージーランド等から招聘された教員もみられる。彼らは母国での教員免許と豊富な教学経験を有している。

こうした「中外合作弁学」の学費は、北京市の生徒の場合は每学期 3.4 万人民元で、北京市以外の生徒は 3.6 万人民元となっており、それぞれ教科書代、衣類費、食費は含まれていない。また、これに加えて寮費として每学期 3,500 元も必要となる<sup>2</sup>。この学費は、一般の高校の学費と比較すると非常に高いものとなっている。

このように、北京師範大学第二附属高校においても、その教育課程に着目すると、中国の国家教育課程を基本としながら、海外の教育課程を選択的に履修する複線モデルを採用して

---

<sup>1</sup>北京師範大学附属中学『北京師大二附中 PGA 高中課程班』2011 年。

<sup>2</sup>同上。



いることが確認された。では、次にアメリカの AP プログラムを中心として生徒の海外留学を有利にする環境を整えている高校では、どのような取り組みが行われているのだろうか。

#### 第4項 APプログラム

ここでは、AP プログラムを積極的に導入しているケースとして北京市内にある私立高校の取り組みについて言及していく。具体的には、王府学校と二十一世紀実験学校に焦点を当てることとする。

##### 第1 王府学校

王府学校は、2003年に創設され、北京市教育委員会によって「中外合作弁学」として認可され、イギリス A-level 課程とともに、アメリカの AP プログラムを積極的に取り組んでいる学校である。実際に、AP プログラムの運営主体であるアメリカのカレッジボードによって AP 教学モデル校(原語: AP 教学示範学校)としても認定され、現在は 24 の AP 科目(「微積分 AB」、「微積分 BC」、「統計学」、「物理 B」、「物理 C:力学」、「物理 C:電磁」、「化学」、「英語と作文」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「生物」、「芸術史」、「心理学」、「環境科学」、「人文地理」、「コンピュータ科学 A」、「アメリカ政治」、「アメリカ史」、「ヨーロッパ史」、「世界史」、「フランス語」、「スペイン語」、「ドイツ語」、「日本語」)を開設している。

教育課程としては、主にイギリス A-Level 課程を履修するコースと、アメリカの AP 課程を履修するコースが用意されているが、それぞれ初めの二年間で、AP 課程等を選択履修しながら、国家によって規定される教育課程の履修を終え、それから本格的に全て英語による国際課程を履修し、大学へ進学するという流れとなっている<sup>1</sup>。

さらに、同校では、アメリカのミネソタ大学とノースカロライナ大学のサマークラス(原語: 夏季課堂)も、英語のレベルを上達させ、アメリカ文化を理解し、アメリカの大学生活を体験することを希望する優秀な高校生を対象として提供されている。2011年、ミネソタ大学の場合は、7月18日から8月5日まで、ノースカロライナ大学の場合は7月11日から7月29日までプログラムが実施された。サマークラス中、生徒は大学の英語の授業や専門科目を履修することができ、修了後は修業証書も得られる。また、大学の宿舎に滞在し、大学キャンパス内の生活を経験することができる。こうしたプログラムへ参加するには、高校での成績が GPA3.0 以上であることが求められ、また、TOEFL、IELTS、SAT 等の英語の試験成績や学校内外での社会活動に関する資料等も審査される。なお、その申請費用は 200 円である<sup>2</sup>。

また、同校はノースカロライナ州にある Millbrook 高校とも提携して 2011年9月から交換留学を行っている。実際、Millbrook 高校から 6名の生徒が王府学校の第 11 級で学習し、王府学校から 5名の生徒が Millbrook 高校第 11 年級で学習した。その一年間、アメリカの生徒は王府学校が開設する 24 の AP 科目のなかから自身の関心のあるものを選択履修し、翌

---

<sup>1</sup>北京王府学校。「課程整体紹介」<[http://www.bjroyalschool.com/project\\_course/0/0.shtml](http://www.bjroyalschool.com/project_course/0/0.shtml)>

<sup>2</sup>北京王府学校。「国際項目弁公室」<<http://www.bjroyalschool.com/inter/mk.html>>

年 5 月に王府学校の生徒とともに AP 試験を受験することになる。このように、アメリカの学校と教育課程を共有することで、そうした交換留学といったシステムも導入しやすくなると言えるだろう<sup>1</sup>。

このように、王府学校でも中国の国家教育課程の履修に加えて、選択的に AP 課程等の海外の教育課程を生徒が履修できるシステムを整えている。また、さらに海外の大学や高校に生徒を派遣するプログラムも設けられており、こうした点は私立学校の特徴的な部分でもあると指摘できるだろう。

## 第 2 北京二十一世紀実験高校

次に、北京市二十一世紀実験高校についてみていく。同高校は、1993 年に企業家によって創設された全寮制の学校である。同校は、2010 年 3 月に、アメリカの高校と連携した「中外合作弁学」として、北京市教育委員会によって認可された。

その教育課程には、中国の国家教育課程、TOEFL や IELTS のための英語教科課程、SAT 課程、AP 課程を含むアメリカ課程が設置されている。課程履修の流れとしては、まず初めに中国の国家教育課程の履修と TOEFL や IELTS 等の英語強化課程を選択的履修を経て、その後で SAT や AP 課程を履修するのである。

二十一世紀中学では、「数学」、「物理」、「化学」、「コンピュータ科学」、「経済学」、「英語」の 6 科目を AP 科目として提供しており、こうした科目は中国人の教員と提携するアメリカの高校から招聘する教員が協力して行う。一方、中国の国家教育課程は、中国の教員が担当することになっている。授業での使用言語については、高校一年生、二年生の段階では、中国語と英語を用い、三年生になると授業は全て英語となる。

基本的に、AP 課程の履修の対象は高校二年以上の生徒であるが、なかには一年生で履修する生徒もみられることは着目に値する。2010 年、二十一世紀実験高校の生徒で AP 試験を受けたのは全体でおよそ 100 名であったが、そのうち一年生の生徒が 2 名含まれていたのである。このように、低学年の生徒が AP 科目を履修してその試験を受けるという状況は、北京市内の他の高校でもみられている。また、生徒一人当たりの受験科目数についてみると、高校三年生の受験者よりも、むしろ低学年の生徒の方が多傾向があることも指摘されている<sup>2</sup>。

以上、北京市二十一世紀実験高校についてその AP プログラムの実践についてみてきたが、教育課程に関しては、基本的に中国の国家教育課程を履修した上で、AP 課程等の海外の教育課程を履修する形をとっていることが確認できた。また、特徴的な点としては、高校一年生ですでに AP 試験を受験する生徒が近年現れていることである。そうした状況を考慮すると、中国の国家課程と海外の教育課程の履修のバランスをとることが今後の課題として指摘することができるだろう。

---

<sup>1</sup>北京王府学校。「国際項目弁公室」<<http://www.bjroyalschool.com/inter/hy.html>>

<sup>2</sup> 『北京晨報』2010 年 4 月 23 日。

## おわりに

以上、中国における高大接続プログラムについてみてきたが、明らかになったのは次のとおりである。

まず、高校から大学への接続問題を教育課程の構成面から考慮すると、高校の教育課程のなかに、学校が独自に設置することができる選択科目が認められ、国家が規定する課程に加えて、各学校はそれぞれの地域や生徒の状況に応じた課程を設定することができることが特徴として指摘できる。そして、こうした仕組みの中に、中国の高校生を国内の大学へ円滑に進学させることを目的とする科目が開設されているのである。実際、華東師範大学第二附属高校では、「荣誉課程」として大学教員が高校に出向いて大学の授業を行い、そこで修得した単位は大学でも認定されるものを開設している。現在こうした課程を開設する学校は限定的であり、しかもその科目も科学に関するものが中心となっているが、今後はさらにその幅が広がる可能性も考えられる。

次に、海外の大学への接続という点においても、中国の高校の教育課程に含まれる選択科目は重要な役割を果たしていると言える。現在、中国の高校は様々な形で海外の教育機関と連携しており、例えば、海外の大学と直接連携をとり、大学教授が中国の高校に赴き授業を行うというものが挙げられる。そして、その際に生徒が修得した単位は同大学への入学後に認められる。さらに、海外の高校と連携して独自のプログラムを実践するケースや、アメリカの AP プログラムを主に活用するケースもみられる。そして、このようにプログラムの種類を三つに区分してそれぞれ具体的なケースを検討してきたが、そのなかで共通していたのは教育課程の仕組みである。すなわち、「複線モデル」として、生徒は中国の国家教育課程を履修しながら、選択科目として AP 課程等の海外の教育課程を学んでいくのである。現在、その高い学費にも関わらず「国際班」への入学希望者は後を絶たず非常に人気があるが、近年の中国の留学熱の高さ等に鑑みると、今後はさらにその需要が大きくなると推測される。その際、中国の国家教育課程と、海外の教育課程のバランスをいかに保つかという点は、一つの課題であろう。今後、こうした点にも注目していきたい。

### 【付記】

本論は、小野寺香「中国における高大接続プログラム」小川佳万（編）『東アジアの高大接続プログラム』（広島大学高等教育研究開発センター、2012年）を若干修正したものである。

## 第2節 韓国における AP の現状 -外国語高等学校及び語学院を中心に-

申 昌浩(京都精華大学)

現在韓国の高等学校で AP 制度に取り組んでいるのは、主に特殊目的高校、外国語高等学校、代案高校の外国人学校などである。2013 年度現在「韓米教育委員団」を始め、20 の AP center 高校があり（資料 6 参照）、その中でも知名度が高いのは、韓国初の外国語高等学校である「大元外国語高等学校」、自律型私立特目高等学校である「韓国外語大学校付属龍仁外国語高等学校」や「歴史史観高等学校」などがある。今回の AP 調査では、ソウル近辺にある「大元外国語高等学校」、「韓国外語大学校付属龍仁外国語高等学校」に二つの特殊目的高等学校を訪問し、調査を行った。

また、AP を利用して米国に留学を希望する高校生や大学生は語学院などを通いながら AP 試験に備えて科目別の講義を受講しながら、AP 受験をしている現状を把握することは出来たのである。

### 第1項 韓国の上高等学校の分類

（資料 1）韓国の高校類型別現状（英才学校除外）

区分	計	一般校			自律校		特目校							特性化校	
		小計	一般校	総合校	自律型公立校	自律型私立校	小計	国際校	外国語校	科学校	芸術校	体育校	マイスター校	職業校	代案教育
学校数	2,318	1,524	1,389	135	116	49	135	7	31	21	27	14	35	473	21
(校)	%	65.7	59.9	5.8	5.0	2.1	5.8	0.3	1.3	0.9	1.2	0.6	1.5	20.4	0.9
学生数	1,888,484	1,350,486			99,913	49,599	65,913							322,573	
(名)	%	71.5			5.3	2.6	3.5							17.1	

出所：教育部（基準：2013 年 5 月 1 日）

資料 1 の表は、韓国の高等学校の性格による分類表である。それぞれの目的や教育の方針のよって、分類しているのである。また、韓国の高等学校は、学校長のカリキュラム編成権などによって、外海への進学を目的としている AP への取り組みや高大連携深化プログラムである UP にどのように関わるのかが明確である。

なお、2014 年度ソウル大学に合格した学生たちは、一般高等学校の生徒より、AP に取り

組んでいる特目高校や自律型私立特殊目的高校が非常に高いパーセントをしめしている。その現状に関する報告記事があったのでここで紹介しておきたい。

〈資料 2〉

『朝鮮日報』（2014/02/21）の朝刊の記事によると、ソウル大に 2014 年度合格した生徒の状況について、今年度は一般高校からの合格者が 6%も減っているとのことであった。その代わりに、特目高校や自律私立高校の合格者が増えているとのことであった。特殊目的の高校や自律私立高校のような超エリート教育機関である高校からの進学が増えていることが明らかになっているのである。

## 第 2 項 AP 関連語学院の訪問先事前調査

### 第 1 ソウル市の語学院（私立）における AP の実態調査

現在、韓国にある語学院の中ではホームページに AP や STA の講座を名乗るところが多く存在している。その事情を調べるため、2014 年 2 月 4 日電話による聞き取り調査及び訪問調査への協力を事前をお願いしていた。

#### 1 調査対象：

- ①EJ prep 語学院（ソウル市江南区新沙洞）
- ②Ivy link 語学院（ソウル市江南区新沙洞）
- ③Kindle prep 語学院（ソウル市江南区新沙洞）
- ④Hackers SAT 語学院（ソウル市瑞草区江原大路）
- ⑤Ivyon Education 語学院（京畿道城南市盆唐区亭子洞）
- ⑥Princeton Review 語学院（ソウル市江南区永東大路）

## 2 調査結果

EJ prep 語学院は、AP に関して話す内容がないという理由で拒否、Princeton Review 語学院は、AP 担当者が不在という理由で断った。また、残りの 4 社は上司と相談して折り返し連絡すると言ったまま連絡なかった。

そのため、現地においてアポイントなしの訪問調査を試みた。

### 第 2 IK 語学院 (AP, STA I・II、TOPEL 語学スクール)



訪問時期：2014/02/17（月）16：00-18：00

場 所：ソウル特別市江南区狎鷗亭洞周辺

訪問者：濱名 篤（関西国際大学）、申昌浩（京都精華大学）、申年浩（現地協力者）

対応者：受付担当者

#### 調査内容

AP と SAT に関する授業を行っているという IK 語学院へ飛び込み調査を行った。IK 語学院は、受付担当の女性にインタビューをおこなった。2 月 17 日現在においては、冬の講義が終わったということであった。ただし、AP 関連クラスは、15 人以下の少人数制のクラスで行っており、受講料は、受講するが学生の実力や進学希望の学校に合わせ授業の内容や授業料が決まるという説明だけで、詳細なことは聞けなかった。語学院における AP のクラスの開設は、主に長期の休みの期間である夏休みや冬休みに重点的にクラスをおいているとのことであった。

### 第 3 「海外留学公社」



訪問時期：2014/02/17（月）15：00 から

場 所：ソウル特別市江南区狎鷗亭洞周辺

訪問者：濱名 篤（関西国際大学）、申昌浩（京都精華大学）

対応者：受付担当者

#### 調査内容

「外海留学公社」の主な仕事としては、留学の斡旋や語学学校の紹介にあるが、高校 2 年生の子どもがアメリカの大学へ留学したいという前提で、外海留学公社の相談員に AP 及びアメリカへの留学に関する質問を行った。AP 関連のカリキュラムのない高校に通っている場合は、直接留学することは難しい状況であると説明された。

その代わりに、留学をするためには TOEIC、TOEFL を受験するのがいいと進められた。海外留学公社は、留学生が行きたいところや学校は紹介するものの、AP を実施する語学院や塾の事は把握していないという答弁であった。

#### 第 4 AP 関連書籍調査（ソウル市内の書店を中心に）

2014/02/18（火）16：00 から

場 所：ソウル特別市鐘路区鐘路 1 街

訪問者：塚原修一（関西国際大学）、申昌浩（京都精華大学）

##### 1 永豊文庫([http://www.ypbooks.co.kr/m\\_main.yip](http://www.ypbooks.co.kr/m_main.yip))

韓国の大型書店として、インターネットを通じて国内図書を始め、外海や日本の図書、外海図書の注文及び音盤を販売している。

##### 2 教保文庫(<http://www.kyobobook.co.kr/>)

韓国の大型書店として、各種図書情報発信と 1997 年からインターネット書店を兼ねている。国内図書を始め、外海や日本の図書、外海図書の注文及び音盤を販売している韓国最大書店であり、もっとも AP 関連の書籍と在庫が多い本屋である。

近年外国語書籍に関する陳列の面積も増やしており、AP 関連の書籍がほとんどそろっていた。むろん、AP 以外の語学関連や留学試験（SAT ほか）対策のテキストおよび各語学試験関連の必要な書籍が充実している本屋である。

#### 第 5 外国語スクール



「YBM 語学院」

2014/02/18 (火) 16:00 から

場 所：ソウル特別市鐘路区

訪問者：塚原修一（関西国際大学）、申昌浩（京都精華大学）

調査内容

鐘路という地域は、昔から外国語スクールが集中しており、様々な言語を学ぶことが出来る。大型語学スクールによって街の一角を成している状況である。しかしながら、AP 関連の教育を行っている語学院はなかったのである。

特筆すべき内容としては、AP 関連の教育を行っている語学院という私教育機関が集中している地域は、江南地域（狎鷗亭洞周辺、江南駅周辺）である。これらの地域は、韓国においても富裕層が居住している地域として知られている。

### 第3項 AP 実施高校への訪問調査

#### 第1 訪問先①

「大元外国語高等学校(대원외국어고등학교、Daewon Foreign Language High School)」



WEB SITE : <http://www.dwfl.hs.kr>

訪問時期：2014/02/18 (火) 10:00~11:30

場 所：ソウル特別市廣津区中谷洞 176-124

訪問者：濱名 篤（関西国際大学）、申 昌浩（京都精華大学）

対応者：国際部長朴仁善氏

#### 1 大元外国語高等学校沿革

ソウル特別市廣津区中谷洞に位置している私立高等学校である大元外国語高等学校は、1983年10月に高等学校として認可を得て、1984年に大元外国語学校として開校している。1992年に「大元外国語高等学校」へと改編している。

同高校は、韓国最初の外国語高等学校である。大元語高等学校、大元女子高等学校、大元国際中学校と同じ学校法人である大元学院所属の外国語高等学校である。

主な教育対象の外国語は、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、日本語、中国語を教えている。



- 設立形態：私立特殊目的高等学校
- 男女共学
- 生徒数：36クラス 1, 500 余名
- 教職員数：70 余名
- 学校の教訓

"Koreans Branching out around the world. (世界に広がる品格高い韓国人になる)"

## 2 大元外国語高等学校の特色



### (1) 入学試験の典型方法

学生入学選抜審査は、ソウル地域を中心に行っており、中学校英語教科成績を1次典型審査(1段階)が行われ1.5倍の学生が通過する。中学校の2, 3学年の英語の内申成績(換算点数)の合計と出欠日数による選抜である。

1次審査を通過した学生は2次典型審査(2段階)で、書類評価及び面接が行われる。学校生活記録簿、自己開発(主導学習領域)計画書、教師推薦書を下に面接試験が行われ、その後合否判定が成される。

### (2) 大元外国語高等学校の授業料

特目高校である大元外国語高等学校の授業は、一般高校よりも高いものである。

1年間の授業料は、506万ウォンであり、放課後プログラムの費用は、別当払わなければならない。放課後プログラムの費用は、月に20万ウォン程度である。これらの費用は、一般の公立や私立高校に比較してもかなりの高額の授業料であることは間違いないといえる。

### (3) クラス編成

2014年現在、韓国ではなく、他の外国の大学に進学することを目的とする学生は、国際語科、国内の大学への進学を目標としている学生は西洋語科と東洋語科に分けており、総10クラスで構成されている。

各語学別クラス編成を具体的に見ると、以下のようである。

- 英語専攻 (2クラス)
- ドイツ語専攻 (1クラス)
- フランス語専攻 (2クラス)
- スペイン語専攻 (2クラス)
- 日本語専攻 (1クラス)

➤ 中国語専攻 (2クラス)

### 3 大元外国語高等学校のカリキュラム紹介

➤ DHS (Daewon Honor Society)

➤ マニュアル進学指導プログラム

➤ 論述、討論プログラム

➤ 多様な創意的体験活動

➤ GLP(Global Leadership Program) : 韓国で最初に導入した高校生の外海留学プログラム GLP 課程は、外国語英才を早期発掘し、国際的なリーダーとしての能力と素質を持った人材を養成する教育プログラムである。毎年、履修者全員が外海の大学へ進学する。

➤ 外海大学の校内訪問入学説明会開催

➤ 学年別特色プログラム

### 4 大元外国語高等学校の GLP(Global Leadership Program)による進学実績表

GLP(진학실적)				
대학명	2013	2012	2011	계
Harvard University	2	2	1	18
Princeton University	1	4	1	22
Yale University	0	1	2	12
Columbia University	10	4	7	59
University of Pennsylvania	4	6	7	57
Dartmouth College	3	3	2	47
Brown University	2	5	8	58
Cornell University	6	8	9	96
Stanford University	4	4	4	40
MIT	3	3	2	12
Cal Tech	1	1	3	7
University of Chicago	7	3	7	60
Duke University	10	11	9	112
Johns Hopkins University	8	5	7	76
Northwestern University	7	7	10	73
Washington University in St. Louis	11	12	26	159
Rice University	14	12	14	108
Georgetown University	4	3	6	56
UC Berkeley	24	22	45	208
Williams College	4	3	2	23
Amherst College	2	0	2	28
Swarthmore College	2	0	2	36
University of Cambridge	1	0	2	3
University of Oxford	2	1	2	8

\* 중복 합격자 포함

### 5 大元外国語高等学校の AP への取り組み状況

国際語班における AP への取り組み状況は、2011 学年度から放課後プログラムに転換している。この放課後プログラムにおいて AP 関連の教育が行われている状況である。

AP に関する最近の現状については、STA の成績が 2300 点以上の優秀な学生も多く、そのような学生たちは自己満足のため、他の学生に対するプライドのためにも AP を受験している。参考資料として、見せてくれた学生たちの成績簿には、8 科目から 15 以上科目において優秀な成績を収める学生がいる。上位は主に女子学生が占めている。

主に、理系の科目を受験し、高い成績を収めているが、文系にあたるアメリカの歴史などは難しく受験者が少ないということであった。また、個人的にもっと AP を受験した学生は、専門の語学院で AP 関連の科目を受講する場合もあるということであった。

以下の表は、2011 年度卒業生の AP 科目別成績の分布を示しているものである。

(表) AP 科目別分布 (2011 年度卒業生)

Test	5	4	3
Total Number	721	273	46
Calculus BC	65	8	7
Calculus AB Subscore	64	15	1
Macroeconomics	64	28	2
Microeconomics	59	32	3
Psychology	53	13	2
Statistics	43	18	1
World History	40	21	1
Physics B	38	6	1
Chemistry	34	14	4
US History	32	23	4
English Language	28	8	3
Physics C (Mechanics)	26	8	2
Biology	22	2	1
Chinese Language and Culture	22	20	0
Physics C (Electricity and Magnetism)	21	7	0
U.S. Government and Politics	20	16	6
English Literature	18	7	1
Comparative Government and Politics	16	5	0
European History	11	4	2
Environmental Science	7	3	0
Music Theory - Aural Subscore	6	1	0
Spanish language	6	1	0
Japanese Language and Culture	5	0	0
Computer Science A	4	6	0
Human Geography	4	1	0
Music Theory	4	2	1
Music Theory - Nonaural Subscore	4	0	1
Art History	2	4	2

AP 과목별 분포  
(2011년 졸업생)

なお、以下の表は 2010 年度から 2012 年度にかけてアメリカ主要大学への合格状況を示したものである。

6 2012 年度現在アメリカ主要大学への合格現状 (表)

また、AP を担当する教員は、すべてがアメリカ人であり、彼はアメリカにおける求人広告を通して募集している。外国人教員のアメリカでの教育水準は、「修士号」を取得していることを前提としている。外国人教員の給与を時給で換算すると 1 時間で 10 万ウォンとしているようである。

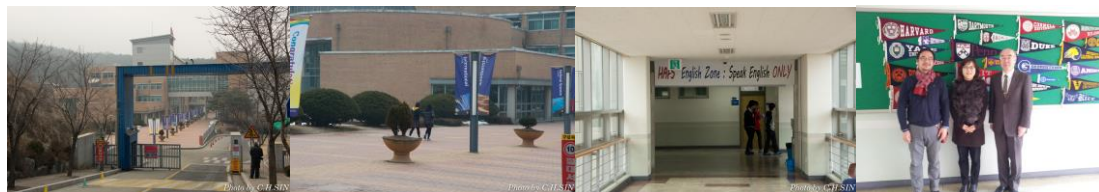
미국 주요대학 합격 현황

대 학 명	2010	2011	2012	비고
Harvard University	1	1	1	
Princeton University	1	1	4	
Yale University	1	2	1	
Columbia University	5	7	4	
University of Pennsylvania	4	7	4	
Brown University	3	7	4	
Cornell University	12	8	8	
Dartmouth College	5	1	3	
Stanford University	5	4	4	
MIT	1	2	3	
Cal Tech	0	3	1	
University of Chicago	5	7	3	
Northwestern University	7	10	7	
Duke	13	9	8	
Williams	4	2	2	
University of Cambridge	0	2	0	
University of Oxford	3	2	0	
총 계	70	75	57	

(2012년 4월 2일 현재)

## 第2 訪問先② 韓国外國語大學校付属龍仁外國語高等學校

(한국의국어대학교 부속 용인의국어고등학교、Hankuk Academy of Foreign Studies)



Web site : <http://hafhs.hs.kr/>

訪問時期 : 2014/02/20 (木) 10 : 00-12 : 00

場 所 : 京畿道龍仁市處仁區慕賢面外大路 54 番 50

訪問者 : 塚原修一 (関西國際大學)、申昌浩 (京都精華大學)

対応者 : 國際部長金卯中氏

### 1 韓国外國語大學校付属龍仁外國語高等學校設立沿革

私立外國語高等學校 (2005 年から)

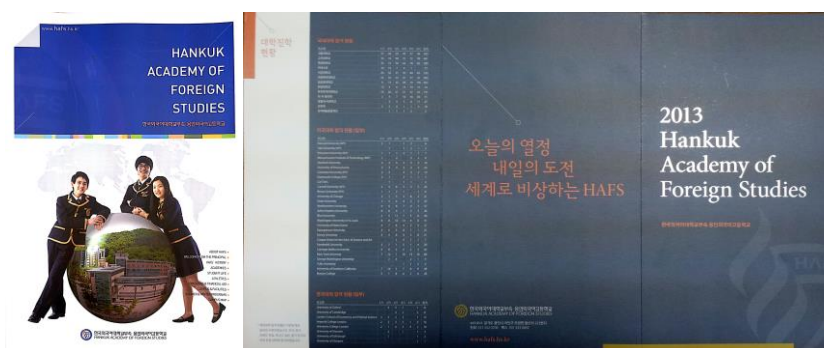
韓国外國語大學校付属龍仁外國語高等學校 (2008 年から)

特集目的高等學校 自律型私立高等學校 (2011 年から)

韓国外國語大學校付設龍仁外國語高等學校 (2014 年 3 月 1 日變更予定)

- 生徒数 : 1, 094 名 (2011 年現在)
- 男女共学
- 教職員数 : 109 名

### 2 韓国外國語大學校付属龍仁外國語高等學校の特色





(上記の写真は、学校紹介パンフレット、入学準備案内書)

韓国外語大学校附属龍仁外国語高等学校は、韓国外語大学校と龍仁市が協力して設立した韓国最初の官・学協力私立高等学校である。略称としては、外大外高、龍仁外高、外大附属外高などであり、校内では HAFS と呼んでいる。

設立以後 2010 学年度までは外国語高等学校体制で、英語科 3 クラス全員が留学クラスとして運営しており、国内大学進学クラスはフランス科 1 クラス、ドイツ語科 1 クラス、中国語科 3 クラス、日本語科 2 クラスの 7 クラスで運営していた。

2011 学年度に外国語高等学校から自律型私立高等学校へ転換することで国際系列 3 クラス、人文系列 4 クラス、自然系列 3 クラスにクラスの構成を変更している。

2014 学年度は、国際系列 2 クラス、人文系列 4 クラス、自然系列 4 クラスで構成し、運営している。

すべての学生は、英語を除外した上、一つ以上の外国語授業を選択しなければならない。国際系列は、フランス語、スペイン語、中国語、日本語を、人文系列クラスは、ドイツ語、フランス語、中国語、日本語を、自然系列クラスでは、ドイツ語、中国語、日本語を受講しながら、DELF, HSK, JLPT などのような外国語認証試験において一定水準以上の成績を得ることを目的としている。

韓国外語大学校附属龍仁外国語高等学校は、設立初期の段階から単純な私立学校ではなく、地方自治体が設立費用の全額の支援を受けて開校した。龍仁市は、地域の発展のため、地域の未来のため地域内に名門校を誘致したのである。

龍仁市は、開校までの設立費用 198 億ウォンを全額支援しており、韓国外語大は外大附属外高を設立するために、龍仁キャンパス内の 16,000 余坪の土地を提供している。外高の学生たちが高校卒業後は、韓国外語大学校と姉妹提携結んでいる 45 ヶ国 70 余の世界優秀大学へ進学するような計画の下で開校した高校である。

龍仁市は設立の全額を負担する代わりに毎年新生を選抜する際、龍仁地域の中学校出身の学生を最小限でも 30%以上を選抜する地域割当制を要求しており、実現しているのである。また、学校の広報にも力を注いで、初の新入生選抜において 9.6 : 1 という高い競争力を記録している。

なお、2011年度からは、特目校の中では最初の自律型私立高等学校へ転換し、新入生の構成及び教育課程に大きな変化を与えている。外国語へ特性化された教育課程を志向しており、すべての学生が英語以外にも、ドイツ語、フランス語、中国語、日本語、スペイン語などの専攻外国語授業を受けている。

### 3 龍仁外国語高等学校の授業料

外国語を教育する特目高校であり、自律私立外国語高等学校である龍仁外国語高等学校の授業は、一般高校や大元外国語高等学校よりも高いものである。授業料、寄宿舎料、食事費用を含んで、月別 120 万ウォンである。その他に、制服や体操服等々に必要な経費は、85 万ウォン以上である。学生生の生活費を除いた単純な計算をしても、年間最低でも 1,500 万ウォンが必要となるのである。

首都圏 4 年制大学を卒業した学生の初任給が、2,500 万ウォンから 3,000 万ウォンの間としていることを参考すると龍仁外国語高等学校の授業料に通わせるために必要な経費は非常に高いものである。他の外国語高校も同様の状況である。

### 4 龍仁外国語高等学校のカリキュラム紹介 (HAFS Curriculum)

- 学年別 10 クラスがあり、総 30 クラスで運営されている。

## 第 3 国際課程

- 外海名門大学進学に焦点を合わせた教育課程
- AP、Advanced Honors
- 人文、社会系列及び自然・工学系列選択科目履修可能
- College Counselor の進学指導
- 外海大学の校内訪問入学説明会開催
- 多様な創意的体験活動

### 1 人文・社会課程

- 国内名門大学の人文・社会・政経系列へ進学のため教育課程
- 修能（修学能力試験）、論述及び深層面接関連教科集中履修
- 国語、英語、数学、社会及び第 2 外国語教科強調

### 2 自然・科学課程

- 国内名門大学の自然・工科系列および医大・歯科・韓医大進学のための教育課程
- 修能（修学能力試験）、論述及び深層面接関連教科集中履修
- 数学及び科学関連教科強調
- 高校-大学連携を通じた科学実験及び実習強調

### 3 教育課程の特徴 (Overview of HAFS Education)

- 正規教育課程と選択教育課程
- 英語没入教育の示範運営：すべての英語教科は英語で行い、その他の外国授業はそ

の言語で行われる。また、他多数の授業も英語で行われる。

- 促進・深化クラス運営
- 国際認証教科目：教科別英語没入教育を実施し、科目の中には College Board から優秀教育課程として認証された授業プログラムを運営している。
- 国内・国外大学進学指導連携学習
- 語学認証試験及び競試大会と連携

#### 4 放課後教育課程 (Afterschool Program)

- ET(Elective Tracks) 選択可能な多様な合わせ式講座
- ARC(Advancement Research Course) 自然課程専門プログラム
- PBLC(Project-Based learning Class) プロジェクト単位のスタディクラス

#### 第4 龍仁外国語高等学校での学生生活内容

- ①登校時間は、8:00 AM までの教室に入室し、授業を受けるが、24時間の管理体制の下で、教育を受けているというべきである。
- ②1,158室名の寄宿舎が用意されており、2人1室や1名1室の部屋が用意されており、全校生が3年間の寄宿舎生活をしている。
- ③言語的暴力を含んだ暴力、窃盗、喫煙、飲酒、異性交際に対する効率的な罰点制度である **Strike** 制度を運営している。
- ④学内外の豊富な奨学金制度も設けており、全校生の約15%の学生たちに奨学金を与えている。
- ⑤2013年度現在200個以上のサークル活動を行っており、寄宿舎生活をしている学生たちに充実した学園生活を保証している。

#### 第5 龍仁外国語高等学校のAPへの取り組み状況

〈資料4〉APへの取り組み状況とその結果

# HANKUK ACADEMY OF FOREIGN STUDIES

232, Wangsan-ri, Moheon-Myon, Cheoin-gu, Yongin-si, Gyeonggi-do, 449-854, Republic of Korea

www.hafs.hs.kr (+82-31) 324-0050 FAX (+82-31) 322-5823 CEEB CODE: 682011

Principal: Mr. SongKi Kim

Director of International College Admissions: Ms. Myoung Kim

Head Counselor: Mr. Min Lee

## CLASS of 2014 PROFILE



<b>1. About School</b> Established: March, 2005 Type: 100% Boarding School Religious Affiliation: Non-denominational School Type: Co-ed Grades Offered: 10 - 12 (HS1 - HS3) School Days: Monday-Friday School Hours: 8:00 AM - 5:20 PM Dress Code: Yes (Western / Oriental)	<b>2. Academic Information</b> Term: March - December Post-Secondary Education Plans: 100% College/University Curriculum: Most Rigorous/Most Challenging Governing Body: HUFs University System & Board of Trustees Curriculum Adaptation: For US Schools & Korean Board of Education Population: Mostly Homogeneous - 98% Korean																																	
<b>3. Student Body</b> Divisions: International Department 30% Domestic Social Sciences 40% Domestic Natural Sciences 30%  Enrollment by Grade and Gender Grade 10 363 Grade 11 361 Grade 12 361 Gender 38.9% Male 61.1% Female	<b>4. Teaching Faculty Data</b> Teaching Faculty to Students Ratio: 1:15 % MA/MS Plus: 78% 																																	
<b>5. Official Test Scores (Highest Combined Average)</b> SAT I: 	<b>6. Authorized AP Courses</b> (√: Authorized) <table border="1"> <thead> <tr> <th>Subject</th> <th>2009-2011</th> <th>2012-2013</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Biology</td><td>√</td><td>√</td></tr> <tr><td>Calculus AB&amp;BC</td><td>√</td><td>√</td></tr> <tr><td>Comparative Gov. and Politics</td><td>-</td><td>√</td></tr> <tr><td>Computer Science A</td><td>√</td><td>√</td></tr> <tr><td>English Language and Compositic</td><td>-</td><td>√</td></tr> <tr><td>Japanese Language and Culture</td><td>√</td><td>√</td></tr> <tr><td>Microeconomics</td><td>√</td><td>√</td></tr> <tr><td>Psychology</td><td>-</td><td>√</td></tr> <tr><td>Statistics</td><td>√</td><td>√</td></tr> <tr><td>U.S. Government and Politics</td><td>√</td><td>√</td></tr> </tbody> </table>	Subject	2009-2011	2012-2013	Biology	√	√	Calculus AB&BC	√	√	Comparative Gov. and Politics	-	√	Computer Science A	√	√	English Language and Compositic	-	√	Japanese Language and Culture	√	√	Microeconomics	√	√	Psychology	-	√	Statistics	√	√	U.S. Government and Politics	√	√
Subject	2009-2011	2012-2013																																
Biology	√	√																																
Calculus AB&BC	√	√																																
Comparative Gov. and Politics	-	√																																
Computer Science A	√	√																																
English Language and Compositic	-	√																																
Japanese Language and Culture	√	√																																
Microeconomics	√	√																																
Psychology	-	√																																
Statistics	√	√																																
U.S. Government and Politics	√	√																																
<b>7. Campus Facilities</b> <table border="1"> <tr><td>Auditorium</td><td>State of the Art Classrooms</td></tr> <tr><td>Testing Center: ETS and ACT</td><td>Counseling Center</td></tr> <tr><td>College Admission Center</td><td>Modern Dormitory Complex</td></tr> <tr><td>Library</td><td>Health Center</td></tr> <tr><td>Music Center</td><td>Language Laboratory</td></tr> <tr><td>Multi-Media Laboratory</td><td>Computer Laboratory</td></tr> <tr><td>Two Outdoor Amphitheatres</td><td>Art Gallery Hall</td></tr> <tr><td>Sports Complex</td><td>Broadcasting Station</td></tr> <tr><td>Conference Room</td><td></td></tr> </table>	Auditorium	State of the Art Classrooms	Testing Center: ETS and ACT	Counseling Center	College Admission Center	Modern Dormitory Complex	Library	Health Center	Music Center	Language Laboratory	Multi-Media Laboratory	Computer Laboratory	Two Outdoor Amphitheatres	Art Gallery Hall	Sports Complex	Broadcasting Station	Conference Room		<b>8. Club "Extra-Curricular" Activities</b> Arts or Musics : 13 clubs Natural Sciences or Medical Sciences: 24 Sports: 14 clubs Languages: 21 clubs Humanities or Literatures: 33 clubs Performances or Broadcastings or Medias: 23 clubs Business or Computers: 10 clubs Social Volunteer Services: 43 clubs Environments: 10 clubs Etc: 23 clubs															
Auditorium	State of the Art Classrooms																																	
Testing Center: ETS and ACT	Counseling Center																																	
College Admission Center	Modern Dormitory Complex																																	
Library	Health Center																																	
Music Center	Language Laboratory																																	
Multi-Media Laboratory	Computer Laboratory																																	
Two Outdoor Amphitheatres	Art Gallery Hall																																	
Sports Complex	Broadcasting Station																																	
Conference Room																																		
<b>9. Grade Point Average and Grading System</b> Students ARE NOT RANKED because the large number of students enroll our school with superior qualifications. Majority of our students have been top 2% in their respective middle schools prior to enrollment, therefore, ranking at the Hankuk Academy would not necessarily indicate educational achievement or relative ability. Grade point averages are calculated yearly based on the final grade attained in each course. Cumulative GPA is an unweighted calculation which included academic courses only. The highest possible GPA is 5.0.	<b>10. School Background</b> Hankuk Academy of Foreign Studies is a comprehensive, 3-year private boarding high school located outside of Seoul. Offering a well-rounded educational program to students with outstanding Co-curricular and Extra-curricular Programs, HAFS has been voted as the high school with the "happiest students" and is the most popular destination for top junior high school students in the nation. Currently, the school is ranked first in the nation for having the highest national scholastic exam achievements. Our vision is to create a dynamic environment of respect and success for future global leaders of S. Korea where all students learn and apply their knowledge and contribute to a civic purpose.																																	

〈資料 5〉 龍仁外國語高等学校の外海大学への進学状況





**PUT THE WORLD INTO YOUR DREAM**  
**HANKUK ACADEMY OF FOREIGN STUDIES**

**Global Inspiration!**  
**Grand Challenge!**  
**Glorious Future!**

11. College Acceptance (A) and Matriculation (M)				
Class of 2008-2012 and 2013 Graduates				
U.S. National Universities	2008-2012		2013	
	A	M	A	M
Boston College	22		6	
Boston Univ.	6	2	3	
Brandeis Univ.	7	3	2	
Brown Univ.	5	3	1	
Bucknell Univ.	1	1		
Cal Tech.	3	1		
California Institute of the arts	2			
Carnegie Mellon Univ.	29	7	5	
Case Western Reserve Univ.	14	2	1	
College of William & Mary	5	1		
Columbia Univ.	11	8	2	2
Cooper Union	6	6	2	2
Cornell Univ.	20	14	5	3
Dartmouth College	6	3	1	1
Duke Univ.	22	7	3	1
Emory Univ.	23	5	8	1
Fashion Institute of Technology	1			
Franklin W. Olin College of Engineering	2	2		
George Washington Univ.	9	2	1	1
Georgetown Univ.	20	13	2	1
Georgia Tech.	7	4	3	1
Harvard Univ.	6	5		
Hope College	1	1		
Indiana Univ.	5			
Johns Hopkins Univ.	21	13	5	2
Maryland Institute College of Art	1			
MIT	6	6	2	1
New York Univ.	61	27	10	4
Northeastern Univ.	5			
Northwestern Univ.	34	14	3	
Penn State Univ.	8	3		
Pratt Institute	8	1		
Princeton Univ.	6	4	1	1
Purdue Univ.	2	1		
Rhode Island School of Design	6	3		
Rice Univ.	31	9	6	2
RPI	4	1		
Rutgers Univ.	11	3		
School of Visual Art	7	1		
Stanford Univ.	14	7	2	1
Syracuse Univ.	7		3	
Tufts Univ.	7	1	2	1
UIUC	46	12	7	
Univ. of Arizona	1			
Univ. of California (Berkeley)	97	21	13	5
Univ. of California (Davis)	9		1	
Univ. of California (Irvine)	16		3	
Univ. of California (LA)	117	9	10	
Univ. of California (Riverside)	1		1	
Univ. of California (San Diego)	31		1	
Univ. of California (Santa Barbara)	9		1	
Univ. of Chicago	19	8	2	1
Univ. of Iowa	1			
Univ. of Maryland	1			
Univ. of Massachusetts at Amherst	2	1		
Univ. of Miami	1	1	1	
Univ. of Michigan	32	2	6	1
Univ. of North Carolina	23	2	5	
Univ. of Notre Dame	23	10	4	1
Univ. of Pennsylvania	19	15	4	2

U.S. National Universities	2008-2012		2013	
	A	M	A	M
Univ. of Rochester	10	1	2	1
Univ. of Southern California	39	7	8	3
Univ. of Texas (Austin)	16	3	1	
Univ. of Virginia	33	4	4	
Univ. of Washington at Seattle	1			
Univ. of Wisconsin-Madison	3	2		
Vanderbilt Univ.	16	4	4	1
Wake Forest Univ.	1			
Washington Univ. in St. Louis	43	16	8	3
Yale Univ.	4	3	1	

U.S. Liberal Art Colleges	2008-2012		2013	
	A	M	A	M
Amherst College	9	6	2	
Babson College	5		1	
Barnard College	2			
Bates College	2		1	1
Bowdoin College	3	1		
Bryn Mawr College	4	2	2	1
Carleton College	6	5	1	1
Claremont McKenna College	13	6	1	
Colgate Univ.	8	6	5	
Davidson College	4	2		
Dickinson College	1			
Grinnell College	2	1	1	1
Hamilton College	9	3		
Harvey Mudd College	3	3	1	
Haverford College	3			
Macalester College	1	1	2	1
Middlebury College	2	1	1	
Mount Holyoke College	4	1	1	
Oberlin College	18	5	1	1
Occidental College	2			
Pomona College	8	5	2	1
Reed College	1		1	
Smith College	5	2		
Swarthmore College	3	3		
Vassar College	6	3		
Wellesley College	7	3		
Wesleyan Univ.	8	1	1	
Whitman College	1			
Williams College	3	1	2	1

U.K. Universities (Colleges)	2008-2012		2013	
	A	M	A	M
Durham University	1			
Imperial College London	13	2	3	
King's College London	2			
LSE	13	2	1	1
Univ. College London	16	3	2	
Univ. Of Bristol	4			
Univ. of Cambridge	6	4	2	2
Univ. of Manchester	1			
Univ. Of Nottingham	1			
Univ. of Oxford	7	3	1	1
Univ. of St Andrews	3	1		
Univ. of Warwick	3		1	
University of Edinburgh	2		1	1

Canadian National Universities	2008-2012		2013	
	A	M	A	M
University of Toronto	2	2		
McGill University	1			

Editor : Burpwee Kim

国際クラスにおいては、正規のカリキュラムとして AP を採用している。そのため、理系中心の AP 対策をするものではなく、文系の科目に力を入れている。そのため、アメリカに留学する学生は、理工系の大学進学もちろん、文系や芸術系にも進学している。

教員組織も充実しており、アメリカで修士終了以上の外国人教員を採用している。外国人教員に対する対応もしっかりしており、正規の教員と同様に扱っている。外国人教員に対しては、財団からのしっかりとしたサポートをしている用である。外国人教員の採用においては、大元外国語教員募集同様、アメリカでの募集広告を利用している。

なお、AP 教育に必要な教科書や参考書は、アメリカから直接取り寄せをするか、国内最

大の書籍販売している教保文庫から購入しているとのことであった。

また、EBC 政策 (English Based Campus) を通じて、校内において常に英語だけを使用し、対話することを原則として実施している。校内で行われる行事や校内放送においても韓国語の使用が禁止されている。韓国語教育や国史を除外していたすべての授業は英語で進行されることが原則となっている。

かつ、EBC 政策を実施するために各クラスに 3 名の GLM(Global Leader Monitors)を置いており、彼らによって管理・監督されている。EBC を実現するため徹底した策と取っているのである。EBC を違反した学生たちには、EBC 違反 (EBC Violation) 規定により、ストライクカード (Strike Card) が発行され、英語を使用するように促している。EBC の違反者の改善が見られない場合は奨学金をもらうことが出来ないシステムを組んでいる。一方、国内クラスの授業の場合は、おおむね韓国語で実施されている。

〈資料 6〉韓国国内 AP Center 高等学校目録 (2013 年 2 月現在)

【<http://cafe.naver.com/advancedplacement/1641>】 アクセス 2014/01/23

AP center 高以外の高校に在籍している生徒たちは、AP の試験期間に合わせて AP center 高校に申し込む形になっている。しかし、AP center 高校においても受験が可能な学校とそうでない学校がいるのが現状である。

학교명	한미교육위원회*	<a href="http://www.fulbright.or.kr">http://www.fulbright.or.kr</a>
주소	서울특별시 마포구 염리동 168-15	02-3275-4000
타학교생 가능	<a href="http://www.fulbright.or.kr/xe/ap">http://www.fulbright.or.kr/xe/ap</a> 2013년 접수 3/4~3/8, Late 3/18~3/22	
학교명	대일 외국어 고등학교	<a href="http://www.daeil.or.kr/">http://www.daeil.or.kr/</a>
주소	서울특별시 성북구 정릉동 17-180	02-940-7333
타학교생 불가		
학교명	명덕 외국어 고등학교	<a href="http://www.mdfh.or.kr/">http://www.mdfh.or.kr/</a>
주소	서울특별시 강서구 내발산1동 169-1	02-2665-8818
?		
학교명	한국 켄트 외국인 학교	<a href="http://www.kkfs.org/">http://www.kkfs.org/</a>
주소	서울특별시 광진구 구의동 619-30	02-2201-7091
?		
학교명	한영 외국어 고등학교	<a href="http://www.hyfl.hs.kr/">http://www.hyfl.hs.kr/</a>
주소	서울특별시 강동구 상일동 166	02-428-7781
?		
학교명	고양외국어 고등학교	<a href="http://www.gyfl.hs.kr/">http://www.gyfl.hs.kr/</a>
주소	경기도 고양시 덕양구 관산동 335	031-969-9072
타학교생 가능	2013년 접수 3/7~3/8 오전9시~오후3시	

학교명	과천외국어 고등학교	<a href="http://www.kcfl.or.kr/">http://www.kcfl.or.kr/</a>
주소	경기도 과천시 중앙동 11번지	02-504-3300
?		
학교명	경기외국어 고등학교	<a href="http://www.gaffl.hs.kr/">http://www.gaffl.hs.kr/</a>
주소	경기도 의왕시 고현동 산21-2	031-361-0500
?		
학교명	<b>동두천외국어 고등학교*</b>	<a href="http://dffl.hs.kr/">http://dffl.hs.kr/</a>
주소	경기도 동두천시 지행동 310번지	031-864-9907
타학교생 가능		
학교명	<b>성남 외국어 고등학교*</b>	<a href="http://www.snfl.hs.kr/">http://www.snfl.hs.kr/</a>
주소	경기도 분당구 백현동 산68	031-701-6717
타학교생 가능 <b>2013 년 집수는 3/6~3/8</b>		
학교명	경남 국제 외국인 학교	<a href="http://www.gifs.or.kr/">http://www.gifs.or.kr/</a>
주소	경상남도 사천시 사남면 월성리 451	055-853-5125
?		
학교명	부산 외국인 학교	<a href="http://www.busanforeignschool.org/">http://www.busanforeignschool.org/</a>
주소	부산광역시 해운대구 좌동 1366-3	051-747-7199
?		
학교명	한국과학영재학교	<a href="http://www.ksa.hs.kr/">http://www.ksa.hs.kr/</a>
주소	부산광역시 부산진구 당감3동 899	051-897-0006
?		
학교명	해운대 고등학교	<a href="http://www.haeundae.hs.kr/">http://www.haeundae.hs.kr/</a>
주소	부산광역시 해운대구 우1동 278	051-742-0313
?		
학교명	안양외국어 고등학교	<a href="http://www.anyang-fl.hs.kr/">http://www.anyang-fl.hs.kr/</a>
주소	경기도 안양시 만안구 안양3동 산41-1번지	031-470-4001-9
?		
학교명	인디언헤드 국제학교	<a href="http://www.iis.or.kr/">http://www.iis.or.kr/</a>
주소	경기도 의정부 호원동 233-3	031-870-3700
?		
학교명	<b>침실국제고등학교</b>	<a href="http://www.csia.hs.kr/">http://www.csia.hs.kr/</a>
주소	경기도 가평군 설악면 송산리 산 102번지	031-589-8900
타학교생 가능		
학교명	한국외국어대학교부속 용인외국어고등학교	<a href="http://www.hafs.hs.kr/">http://www.hafs.hs.kr/</a>
주소	경기도 용인시 모현면 왕산리 232번지	031-322-0700
?		
학교명	민족사관고등학교	<a href="http://www.minjok.hs.kr/">http://www.minjok.hs.kr/</a>
주소	강원도 횡성군 안흥면 소사리 1300번지	033-343-1115
?		
학교명	천안 북일고등학교	<a href="http://www.bukil.hs.kr/">http://www.bukil.hs.kr/</a>
주소	충청남도 천안시 단대로 61번지	041-551-7110
?		
학교명	현대 청운고등학교	<a href="http://www.hcu.hs.kr/">http://www.hcu.hs.kr/</a>
주소	울산광역시 동구 방어진순환도로 1335번지	052-234-3363
?		

〈AP 調査収集資料〉

大元外国語高等学校『大元外国語高等学校案内』学校法人大元学院 2013

大元外国語高等学校『2014 学年度大元外国語高等学校新入生入学典型要項』

学校法人大元学院 2013

大元外国語高等学校『2014 新入生選抜入学節米会資料集』学校法人大元学院 2013

大元外国語高等学校「米国主要大学合格現狀」学校法人大元学院 2012

大元外国語高等学校『2011 学年度国際部教育計画資料』学校法人大元学院 2011  
韓国外国語大学校附属龍仁外国語高等学校『韓国外国語大学校附属龍仁外国語高等学校案内』  
龍仁外国語高等学校 2013  
韓国外国語大学校附属龍仁外国語高等学校『入学準備案内書』龍仁外国語高等学校 2013  
韓国外国語大学校附属龍仁外国語高等学校『韓国外国語大学校附属龍仁外国語高等学校  
CLASS of 2014 PROFILE』龍仁外国語高等学校 2013

〈Web site〉

「海外留学公社」

[http://www.uhakkorea.com/sub07\\_07.htm?PHPSESSID=011074a4d8c03e4e4a2b0082b8d96cf5](http://www.uhakkorea.com/sub07_07.htm?PHPSESSID=011074a4d8c03e4e4a2b0082b8d96cf5) (2014/02/19 現在)

「YBM 語学院」

<http://www.ybmedu.com/> (2014/03/19 現在)

### 第3節 高校-大学連携深化課程 UP (韓国の University-level Program)

—仁荷大学と韓国大学教育協議会の訪問調査を通じて—

申 昌浩(京都精華大学)

#### 第1項 韓国で実施されている「高校-大学連携深化課程 UP」とは

優秀な高校生が大学の科目を一定の期間内（主に、冬休み・夏休み期間中）に大学にて履修、学習するプログラムである。高校生が UP (University-level Program) を通じて履修した科目は、大学入学後履修した科目としてその単位を認定する制度である。いわゆる、「大学科目先履修制」として高校と大学間の学習連携を深化させるプログラムである。

この韓国の「高校-大学連携深化課程 UP」と類似している制度としての例は、米国の (Advanced Placement : AP)、ヨーロッパの (International Baccalaureate : IB)、英国の (General Certificate of Education : GCE) A-Level 試験などがある。

#### 第1 韓国の「高校-大学連携深化課程 UP (University-level Program)」導入

##### 1 「高校-大学連携深化課程 UP (University-level Program)」の必要性

- 1) 平準化教育の下で優秀な高校生の教育水準及び学習欲求を高めるため、教育環境を造成する必要がある。(例：アメリカの AP, ヨロッパの IB)
- 2) 各家庭において、かなりの負担になっている私費教育費を軽減しながら、公教育の競争力を強化させる必要がある。そのためには、公教育が高い水準の教育機会を提供しなければならない。
- 3) 首都圏と地方の教育機会の格差を解消し、学生の学習権利を保障するプログラムが必要としていたのである。
- 4) 教育の持続性維持及び効果を向上など、現実の問題を克服するためには、高校と大学が教育を連携し強化する必要がある。

##### 2 「高校-大学連携深化課程 UP (University-level Program)」制度の導入経緯

2004年、「教育科学技術部」は、高校平準化制度下において学校教育の「普遍性」と「秀越性 (excellence : 最近、作られた教育分野の専門用語)」との調和を追求するために創意的な人材養成のため「秀越性教育総合対策 (2004.12. 22)」を発表した。

優秀な学生を発掘するため、各家庭に負担が大きい私費教育費を減らすため、また、公教育の質を高めるため、中高校の過程においてアメリカの AP のような制度が必要であると思っていたが、一般高校においては、教師の確保、講義の水準をどうするか、支援、研修などの問題がある。

このような問題の解決策として、2005年、市道の高校教育庁と大学が実験学校の規模で大学科目運営を考案・実施した。しかし、高校教育長と大学の意見の不一致、部署間の問題、予算編成問題、担当者の制度に対する認識不足、大学同士の連携問題などがあらわになった。

「教育人的資源部」の要請もあり、もっと円滑なプログラムの運営のため、大学が中心に

なり実施する必要性から大協が主管になって 2007 年 3 月 2 日高校生たちに大学水準の教科目を先に履修させ、履修結果を大学入学後単位として認定する AP 制度として「大学科目先履修制」を夏休み期間中全国 8 大学で示範運営するとした。

この高大連携教育プログラムに対して「教育部」は、高校-大学間の連携教育が活性化され、理工系の優秀な人材の発掘・育成に寄与に期待するとしていた。この AP 制度の根拠を整えるため高等教育法改定案が 2007 年 6 月 30 日国会を通過してことによるものである。法案の審査過程において執行時期が 2008 年 1 月 1 日に調整されたため、2007 年は示範的な運営だけを行うことになった。

2007 年においては、「University-level Program (UP 制度)」を示範的に運営した。示範的な運営に参加した大学は、高麗大、ソウル大、成均館大、延世大、漢陽大などソウル地域の 5 大学と釜山大、尚志大、KIST の 3 大学であった。2013 年度は、UP 制度に参加した大学は 44 大学となった。

2007 年当初の開設教科科目は、標準教育課程が開発された「数学」、「物理」、「化学」、「生物」など 4 科目としていたが、現在は 5 科目 23 教科となっている。

2007 年から「大学科目先履修制 UP (University-level Program)」という名称で、韓国の正式な教育制度として船出をしたが、「大学科目先履修制」は学生が受講を受けた大学だけに進学できるので、その評価と成績が良くなかった。結果、国交支援事業の予算が打ち切れることになり、大協は良質の講義が提供できる AP または UP プログラムを高校の教育課程で実施すべきだと考え、2009 年度から「高校・大学連携深化課程 UP (University Level Program)」と名称を改め、実施している。

国庫支援金は 2011 年までは、直接各大学へ配分されたが、2012 年と 2013 年は教育庁予算の特別交付金として大協へ支給され、大協が協約している大学へ支払っている。

現在、韓国大学教育協議会と各大学は、国庫支援金を減らす努力をしており、今後、万が一国庫支援事業の対象から外されても、教育奉仕事業の次元で、社会支援事業として続けるつもりである。

## 第 2 高校-大学連携深化課程 UP の目的

「高校-大学連携深化課程 UP (University-level Program)」は、優秀な高校生たちに適合した教育プログラムを提供するという教育的な目的を持っている。

## 第 3 高校-大学連携深化課程 UP の特徴と効果

### 1 高校や生徒

- 学校生活記録簿への掲載
- 深化学習機会へ参加
- 教科学習能力の向上
- 学習同期の誘発

- 大学学習効率性の提高
- 適正、潜在力の向上

## 2 大学

- 大学の社会的な責務性の提高
- 受験者の大学への関心増大
- 高校-大学連携強化
- 知的な拠点である大学の社会的な奉仕活動の一環

## 3 高校-大学連携深化課程 UP (University-level Program ) 全般

- 特定の学問領域に適正と能力が優れた高校生を対象としている点で秀越性もしくは効果性(effectiveness)を志向している。
- 高校の学年の区分なく、学校長の推薦を受けた高校生は、大学が運営している大学科目先履修制に参加している。
- 全国的な教育プログラムとして履修大学に関わらず、大学進学後韓国内のすべての大学で単位として認定される。

## 第4 高校-大学連携深化課程 UP に関する問題点

- 大学が UP 制度を導入する際に、講義を行いのは、各大学の専任教員としているため、長期の休みの時期に教員の配置が問題である。
- また、講師に支払われる謝礼も少ないため、高等教育機関としての大学に対する社会奉仕という側面が強く現れている。
- 大学における受験者確保につながらない可能性も大きく、各大学が積極的に取り組めるかが問題である。

## 第5 韓国の大学科目先履修制 (UP) の教育的な期待効果

- 優秀な高校生たちに大学水準の深化科目を学習する機会を提供することで、学生たちの学業成果度(成就度)を高め、潜在能力を開発する効果がある。個別化、秀越性教育を追求することで平準化政策の限界を補完する側面を持っている。
- 国家・社会が必要とする人材を早期に発掘し、育成する。
- 高校と大学間の連携を強化し、このような教育課程を媒介で高校と大学間の相互協力と理解を促進する契機とする。高校と大学教育を肯定的な方向に誘導する。
- 学生が大学生活への適応、学習計画及び将来のビジョンの確立、大学進学後早期卒業する可能性や大学の特定学問分野により同期化された学生を教育することで教育の競争力を高める効果がある。

それとともに、本来期待していた効果としては、優秀な学生たちの理工系忌避現象を解消し、優秀な科学技術人力を誘導する効果的な装置として期待している。また、高校生が大学

の科目を先に履修することが出来るため、大学で学生が望む科目を履修する機会をより多く持つことが出来るという。

## 第 6 米国の AP と韓国の UP の比較表

区分	米国の AP	韓国の UP
導入時期	1955 年	2008 年
主管機関	College Board	韓国大学教育協議会（中間機関）
教育過程	高等学校の質の提高 教育の秀越成確保	教育の秀越成確保
教育方法	個別科目を提供 教科教育課程形態 教科目を履修しないで試験だけ 応試することが出来る	個別科目を提供 教科教育課程形態 標準教育課程形式 標準教育過程による大学別自律運営
教育方法	高等学校、大学 Home school または、On-line 講 座で代替可能	休み期間中、大学で運営 高校に拡大必要
評価方法	AP Test 選多型（筆記試験）問題と自由 応答型 5 段階評価（3 点以上合格） Home Schooling 学生応試可能	科目別担当教員の別当計画によって 実施 7 段階評価
教育結果活用	大学入学後単位認定 大入典型し、加算点提供 奨学金提供 高校成績認定、加算点	大学入学後単位認定

## 第 2 項 UP 関連調査訪問先

### 第 1

#### 1 UP 関連の訪問先① 「仁荷大学校（INHA University）」

「高校・大学連携深化課程 UP（University Level Program）」の優秀事例調査





調査日：2014年2月19日（水） 11：00-13：30

場所：仁川広域市所在

訪問者：塚原修一（関西国際大学）、申昌浩（京都精華大学）、申年浩（現地協力者）

対応者：入学チーム長李学祚氏、入学処係長金鎮守氏

## 2 仁荷(Inha)大学の UP 運営に関する現状

- 仁荷(Inha)大学は、「高校・大学連携深化過程」(以下「UP」)の実施は、教育奉仕という理念の下で、地域の優秀な新入生を何処よりも早く確保するための戦略の一つとして実施している。
- 実施科目：標準教育課程に沿って、国語(論述)、物理、化学、生物の4科目を実施している。1学期3単位を修得、年間計6単位修得可。
- 今まで、UP履修生128名の中で、仁荷大学へ進学を志願する学生は120名(約93%)、合格率20%である。受講生の定員は、大教の基準では30名であるが、仁荷大学の場合40名である。特に地方の大学における学生確保問題が大きい。
- 仁荷大学の場合、UP受講を希望する学生が他の学校に比べ多いので、学生確保の面で大きな問題はない。
- 財政の面では現在政府の財政支援はあるが、学生の授業料だけで運営が可能。
- 受講生の評価、満足度及び反響がいいので、できれば、志願する学生すべての受け入れたいと考えており、UPはこれからも続けるつもりである。

## 3 大学としての UP 関連の問題点

- 教授の確保問題 - UP過程は専任教授が担当し、夏休みや冬休みを利用して実施している。通常、休みの期間中、教授らは資料を集めたり、研究をしたり、学会や研究会へ出席したりする。そのため、休みの期間中、自分の時間を割いて講義を行う先生を確保するのが難しい。
- 仁荷大学の場合、チームティーチング講義で教授を確保し、問題を解決した。

## 4 UPの実施と学生の確保の問題

- 大学校によっては、開設科目の定員割れにより閉鎖に至るところもある。また、UPは、夏と冬休み(各3週間)の間の集中講義である。受講する高校生は、大学の科目を1日3時間ずつ聞かないといけない。他の塾やクラブ活動と並行してずっと学校へ出席するという一方で、途中諦める者もいれば、最少からスケジュールの調整を理由に諦めるケースもある。
- 仁荷大学は、生徒が集まらないのは制度に対する認識が足りないと考え、地域の学校を訪問、説明会を行うことで優秀な学生が確保できた。これからも地元だけではなく、対象地域を拡大し、学生や親御さんへの説明会を続けるつもりである。

- 特に仁荷大学は、学生確保への問題はないが、基本的に夏休みや冬休み期間中に行われる講義の他に、学生の都合や先生の都合を考え、週末クラスなどを設けることも考えており、色んな方策を試してみて、お互いに良いと判断できれば、大協に提案するのも考えている。
- 奨学金をあげることで、大学校に対する関心度やモチベーションがあがり、後輩への口コミによる宣伝効果がある。

## 5 受講科目の問題

- 現在の開設科目は論述等 4 科目である。しかし、高校側は基本履修科目の他に、特別な科目（実験科目や実用科目）の開設を要求している。
- 大学は、これからもっと積極的に高校への広報活動を行うと同時に、科目を拡大することも考えている。
- 科学深化過程を聴講する高校を指定して、大学の授業が聴講できるようにしている。

## 6 受講料及び支援

- UP 授業料は、1 科目当り理論科目は 20 万ウォン、実験科目は 14 万ウォンであるが、仁荷大学の場合、実験科目は現在扱ってない。
- 韓国大学教育協議会からの支援金は 100 万ウォン
- 学校の方針により、履修学生の中で 12 名の学生に奨学金 10 万ウォンずつ支給している。（当初は 6 名に 20 万ウォンずつ支払うことを考えたが、たくさんの学生に支給したほうが良いと思い半額にした。高校生なのに、大学から奨学金をもらうことで、親御さんも大変嬉しく思っている）。
- また、片親など社会的配慮対象である学生には履修後に奨学金を支給している。

## 7 受講生のメリット

- 高校生でありながら大学で授業を先に受けるわくわく感と、キャンパス内の施設を利用し、大学生の生活が経験できる。
- UP 履修事項が生活記録簿に記載されるので、AO 入試時には好評価につながる。
- UP で修得した単位があるので、大学進学後、時間に余裕がある。
- 余裕時間を語学研修、就活、アルバイト等に有効に使えることが出来る
- 塾など私費教育費の節約につながる。
- 友たちが出来るなど校友の範囲が広がる

## 第 2 UP 関連の訪問先②

「韓国大学教育協議会（Korean Council for University Education）」



WEB Site : <http://www.kcue.or.kr/index.htm>

場所：ソウル市衿川区

訪問時期：2014/02/21（金）

訪問者：申 昌浩（京都精華大学）、申年浩（現地協力者）

対応者：大学入学支援室入学支援チーム長金炳鎮氏、入学支援チーム朴秀娟氏

1 高校-大学連携深化課程 UP（ 韓国の University-level Program ）の運営母体  
「韓国大学教育協議会（Korean Council for University Education）」について

2 韓国大学教育協議会の設立

「韓国大学教育協議会」は、韓国大学教育協議会法「法律第 3727 号（1984.4.10 公布）」に基づいて、1982 年 4 月 2 日に設立された中間機関組織であるといえる。韓国大学教育協議会が発足した当初は、97 大学が参加していたが、現在（2014 年）は、ほぼ 4 年制大学すべてにあたる 440 大学が参加している。

3 韓国大学教育協議会の設立目的

- ①全国 4 年制大学の学士、財政、施設など主要関心事に対すること
- ②大学間相互協力と大学教育水準向上に必要な事項を政府に建議し、政策に反映すること
- ③大学の自律性と創意性を高め、公共性及び責務性を強化することで大学教育の健全な発展を模索する

4 韓国大学教育協議会の機能

- ①大学の教育制度とその運営に関する研究開発
- ②大学の財政支援策及び調整方案
- ③大学の評価
- ④教育部長官が委託した事業の遂行
- ⑤大学の学生先発制度に関する研究開発とその支援
- ⑥大学の教育課程及び教授方法の研究開発と普及
- ⑦大学教・職員研修
- ⑧その他大学間の協同に関する業務遂行

5 大協は基本会員(大学)の会費で運営する。

6 附属機関として、大学政策研究所、教職員研修院がある。

第 3 大韓大学教育協議会が運営する「高校-大学連携深化課程 UP」の概要



## 1 教育対象

① 学校長、クラス担当教師、教科担当教師の推薦を受けた高等学校の在學生（学年区分なし）

② 大学別随試典型合学者

- 随試合格した高3年生たちは、合格した大学にて受講可能
- 合格した大学にUPプログラムがない場合は、別当申請する。

## 2 教育時期と開設科目

- 学期中（週1回、土曜日）、休み中（夏、冬休み期間中）
- 理論科目は45時間（3単位）、実験科目は30時間（1単位）
- 2013年度においては、5教科（「数学」、「科学」、「国語」、「英語」、「社会」）、23教科科目の深化学習内容が運営している。

（なお、2013年度において「韓国史」、「経営学」の追加を検討中である）

## 3 教育の場所と教員

- 講義開設大学
- 大学の専任教授または経歴の豊富な講師が授業を担当する

## 4 クラス構成

受講定員は、クラスごとで20名を基準とすることを基本とするが、最大30名まで増やして運営することも可能である。

ただし、実験講座の場合は、受講人数が20名を超えとクラス分けをし、クラス分けをする場合は2クラスまでとする。

## 第4 教育内容

韓国大学教育協議会が認証した「標準教育課程」とする。教科内容に関しては、韓国大学教育協議会と大学が協議を行い「高校-大学連携深化課程講義資料」を作成している。



左から、「一般化学理論 1」、「微積分学 1」、「一般物理学理論 1」、「一般生物学理論 1」の高校-大学』連携深化課程講義資料である。



左から、「人文社会系列」、「自然科学系列」であり、2012 高校-大学連携深化課程標準教育課程である。

## 第 5 運営手順

高校-大学連携深化課程ホームページ (<http://www.kcue.or.kr>) にて受講申請 → 大学で科目受講 → ホームページから履修証出力 → 学校生活記録簿に記載 → 大学進学後単位認定を受ける

## 第 6 受講料

- 理論科目は 45 時間 (3 単位) 20 万ウォン、実験科目は 30 時間 (1 単位) 14 万ウォン
- 社会配慮対象学生及び居住地域内地域大学受講生 (首都圏除外) は受講料支援

## 第 7 申請方法

「高校-大学連携深化課程 UP」のホームページに指定している受講申請期間に受講したい大学の教科を選択しオンラインで申請する。

## 第 8 受講申請提出書類

- 必須提出書類は、学校生活記録簿、学校長及び教師の推薦書 (ファイルデータでオンライン申請)
- 社会配慮対象証明書

## 第 9 履修結果の活用

- 高等学校学校生活記録簿に履修記載可能
- 協約大学に進学時、相互単位認定または代替科目免除

## 第 10 「高校・大学連携深化課程 UP (University Level Program)」の運営現状

高校-大学連携深化課程 UP は、2007 年 7 月に実験的な (demonstration) 運営をし、2010 年、大協と協約を結んだ学校数は 13 校で、総 36 ヲ講座が開かれ、742 名が受講した。2008 年から 2010 年まで総 5 回試行され、8 ヲ都・市、16 の大学が運営された。総 2,172 名の高校生が教科科目受講し、1,963 名が履修し、履修率は 90.3%であった。

最新の『2013 年高校-大学連携深化課程の年次報告書』によると、ソウル 6 校、京畿・仁川 10 校、江原 1 校、忠清 10 校、慶尚 10 校、全羅 6 校、済州 1 校の計 44 校と協約を締結しており、770 名が受講した。履修率は約 93%で高いものであった。

なお、「韓国大学教育協議会」は、今後もっと多くの大学と連携して、たくさんの学生に教育の機会を増やしたいと考え、プロモーション活動を続けるつもりである。

#### 〈UP 調査収集資料及び参考資料〉

##### ①報告書・資料

韓国大学教育協議会編『2012 高校-大学連携深化課程 年次報告書』教育部 韓国大学教育協議会発行 2012

韓国大学教育協議会編『2013 高校-大学連携深化課程 年次報告書』教育部 韓国大学教育協議会発行 2013

韓国大学教育協議会編『UP を聞き 私を Upgrade させよ』教育部 2013

教育部「高校類型別現状（英才学校除外）表」（基準：2013年5月1日）

『朝鮮日報』（朝刊）2014/02/21

仁荷大学校「2013年冬休み高校-大学連携深化課程アンケート調査結果」仁荷大学校入学戦略チーム 2013

仁荷大学校「2013年冬休み高校-大学連携深化課程 教育機関運営申請書」仁荷大学校入学戦略チーム 2013

仁荷大学校「高校-大学連携深化課程事例発表」仁荷大学校入学戦略チーム 2013

仁荷大学校「2013年冬休み高校-大学連携深化課程（UP）」『運営結果報告書』仁荷大学校入学戦略チーム 2013

仁荷大学校『定時募集及び学科紹介』 2014

仁荷大学校『大学案内』仁荷大学校 2014

##### ②UP 教材編

韓国大学教育協議会入学支援チーム編「一般化学理論 I」『高校-大学連携深化課程講義資料 2013』教育部 2013

韓国大学教育協議会入学支援チーム編「微積分学 I」『高校-大学連携深化課程講義資料 2013』教育部 2013

韓国大学教育協議会入学支援チーム編「一般物理学理論 I」『高校-大学連携深化課程講義資料 2013』教育部 2013

韓国大学教育協議会入学支援チーム編「一般生物学理論 I」『高校-大学連携深化課程講義資料 2013』教育部 2013

韓国大学教育協議会入学支援チーム編「一般化学理論 I」『高校-大学連携深化課程講義資料』教育部 2013

韓国大学教育協議会入学支援チーム編「人文社会系列」『2012 高校-大学連携深化課程標準教育課程』教育部 2012

韓国大学教育協議会入学支援チーム編「自然科学系列」『2012 高校-大学連携深化課程標準教育課程』教育部 2012